

きかけて行くこの教材の地位は輕視出來ないであらう。

## 五、躰

工作に於いては子供が自分の製作物に没入してしまふ。製作時には子供はもう他に誰も認めないで、ひたすらその製作にいそしむ。そこには子供の本當の姿、赤裸々な姿があらはれる。それだけに工作に於いては躰が重要な問題となるのである。いくら附焼刃的に一生懸命やつた所で、いざ製作となると地が現れる。そこに本當に體得された躰が必要なのである。この種の躰は小さな時に於て躰るのが最もよろしい。習慣とし性格にまで仕上げる様にする。躰といつても廣狹色々のとり方があるだらうが、此處では極く大きく廣くとつておいて貰ひたい。躰を便宜上分けて機械器具に對する躰、材料に對する躰、姿勢に對する躰などとし以下之について述べて見たい。

### 1、機械器具に對する躰

機械器具といつても主として工作用具だが昔から日本に於いては、工人等道具を使ふ人はその道具を非常に大切に取扱ひ神聖視して居つた。仕事場に注連繩を張り廻らし神棚をまつる。ふひご祭などといつてふいごを使つてゐる人は一年に一回それを休めて勞を撈ふ等、各々その職によつて道具をまつつてゐる。瘦せても枯れても道具だけはよいものを持ちたいといふ工人の願ひは、武士の刀に於けるそれと同じである。この敬虔な心持が根本になくしては到底偉大な創作はなし得られない。又この物資の大切な時、鋸鉤金槌等鐵を主としたものは、戰場に於いて兵器となり得るものである。兵器は作つても作つても不足する位である。國家は金屬回收等盛んにやつてゐる、こんな時に之等の

用具が工作室にあるといふ事は兵器と同じ様な或ひはそれ以上の價值があるからであらう。もしこれを苟且に使用したならば折角の道具も不甲斐なく思ふのだらう。こんな事を兒童にも感じさせて、道具に對する扱ひ方を丁寧にしなければならぬ。然し兒童が間違つて道具を痛めた場合、それをひどくとがめるのはよくない。いためた原因について反省させ、その取扱法を指導してやり工夫させて正しい使用法をせしめるといふ態度に出づべきであらう。計器の使用法についても同様なことが言へると思ふ。正しいものを正しく使ふことなくして、科學的な方法も正確なる製作もなし得られない。そこに正しい使用法の修練も必要になつてくる、又これは圖畫算數との關係に於いて充分なされなければならぬ。工作に於いても用具に對する躰は教材として、教科書に盛り込まれ充分徹底される様になつてゐる。それと同時に教師の方では不完全なものはそのままにしておかないで、常に正常の状態に直して使用させるべきである。學校の道具といふと役に立たないものといふ様な考へを放擲させる様にしておかねばならぬ。

### 2、材料に對する躰

之は別段とり立てて言ふ必要もないかもしれない、兒童には「勿體ない」といふ心持があまり徹底してゐない。勿體ない、といふ心は何事にも必要であらう。今日の様に資材の不足してゐる時には割合に兒童にも響いてくることであるが、何も物資が不足してゐるから物を大切にしなければいけないといふのではない。これは反面物が豊かになつたらしい加減でよいといふことを持つてゐる。未來永劫までも勿體ないといふ心を忘れてはならない。兒童はとかく一寸とした物は捨て去り易いものである。次に機械器具の取扱ひと材料とについて言へることであるが、製作時の整頓についても考へておかなければならない。直接今使用してゐない器具材料を所定の位置に整頓しておく。これも低



學年から注意されて來なければならぬ。殊に低學年に於いてそれらの注意は工作の目的々なものである。能率の上からも必要である。かくして最後の掃除、後始末も確實に行はさせる。之等がすべて日常生活につながりをもつてはじめて完全なものとなりうる。工作時間だけに限られた事でない事は勿論である。

### 3、姿勢

正しい姿勢、鋸でひく時、鉋で削る時、夫々適した姿勢がある。正しい姿勢に於いてなされる工作によつて正しい製作はなしうる。前にも述べたが兒童は製作しはじめると夢中になつていそむ。自然姿勢も崩れ勝ちであるが、能率の上からも健康の上からも熱中して猶姿勢を崩さない様な身についた、自分のものになつた躰が必要である。

以上三つに互つて述べて來たが、之等が一つに融合して自然に無意識の中に兒童に溶け込んで行く様にしなければならぬ。その他授業時間内に於いて作業に熱中のあまり、教室が騒然とならない様に適宜子供の注意を集中する方法など躰るべき事柄は多い。重ねて言ふ、工作に於いては子供の自然の姿があらはれると。

## 六、團體訓練

大東亞共榮國建設の爲にはどうしても全國民打つて一丸とならなければならぬ。團結が必要である、そしてそれ等が日常化しなければいけない。防空演習に、交通道德には最も直接的に必要を感じるであらう。かかる時國民學校に於いても當然團體訓練といふ事が要求されてくる。工作に於ては之を二つに分つことが出来る。製作時に於ける共同製作と製作時以外の團體訓練とがそれである。兩者相俟つてその効果を擧げる様にしなくてはならない。共同製作の

目標は、個を通じて全體に奉仕する精神と、全體に對する部分の責任とを要求する所にある。兩者合して一つになるべきものであるが、現在最も強張され植ゑつけられなければならぬものと思ふ。これを更に分けて見ると。

### 1、或一つの製作品の各部分を受持つもの

エノホン(二) (13) カルタ。初三、(10) 村。初四、(17) 橋。

等の教材である。然し低學年から急に各人の責任を求めるといふ様な事をせず、兒童性に應じつつ與へられねばならない。カルタに於ては同形同大の紙を多數に作らせ、夫々カルタを分擔して作らせしかも統一ある様にする。村ではカルタより一層企畫的になり共同部面も進歩してゐる。村のどの部分をどう表現し、誰が何處を分擔するかを兒童自身に考へさせる。然し各人が一つの家を作るといふ所に未だ個人的な要素がある。橋に至ると更に一段進められて各人の製作にかかるものは、その一つ一つでは意味をなさず全體を結合して始めて一個の製品としての意味をもつといふ様になる。

### 2、同一作品を多數製作する場合、ある一定の過程を受持つもの

前のものとは大量生産といふ點で多少の差異があると思はれる。國民學校に於いてはこの種の形體をとる場合は少ないかと思ふが、航空機教材の如きは明らかにこの形をとるものであらう。之等はあらゆる社會部面に於て行れてをり、益々活用されなければならぬものである。殊に産業部面に於ては必要である。大量生産の今日當然な事である。そして之等各部分の要員の製作に責任があるか、ないかによつてその國の製品に、信用に重大な影響を及ぼす。更に軍需工場になれば戦場に於ける活動力に關係する。將に國家の盛衰にかかる重大な問題である。かかる躰を小さなこ



の期の児童よりするといふ事を考ふべきである。

次に製作時以外の場合について述べよう。それには製作したものを操作し、又はそれを使って遊ぶといふ時に於て行はれる。ここに於ては操作し遊んでゐる間にも絶えず製作に對し又原理に對して反省が行はれてゐなければならぬ。

それには無意味に喧噪に互つてならぬ事である。當然ここでは秩序、統制を要求される。秩序、統制といふことは唯黙らしておくことではない。必要な話し合ひは勿論必要なのである。そこに秩序があることを要求する。これは教練、少年團訓練などに聯關をもつものである。斯様に遊ばせ、競争をさせてゐる間に一つの方向に引張つて行く様にする、分團毎にするのもよいし記録をとらせ、又は審判によつて優劣を判定し、反省の機會を與へてやる事も必要であらう。

## 七、環 境

環境程子供に對して大きな働きをするものはない。殊に低學年に於ては將に環境によつて育てられた環境の子であると言つても過言ではあるまい。環境は巧まず自然に無意識的に働きかける點に於て、その効果は著しく大である。工作に於ける環境の教育は何も工作室に於て工作の授業の時に於てのみなされるものではないが、此處では主として工作室の環境について述べて見たい。

第一に整頓されてゐることである。雜然たる工作室に於ては科學的な製作も何もあつたものではない。躰の所でも述べた事であるが、今一度考へて見なければならぬ事である。机、腰は勿論戸棚の中の標本、参考品、道具等常に

所定の位置におく様にしなくてはならぬ。工作室は他の教室と異つて備へておくべき物が多くある。その多くのものが秩序だつて納まり、然も利用し易い様工夫すべきである。

次に學習の動機、興味を起すものとして壁面の利用がある。壁面の空いてゐる所はベニヤ板等で張り児童作品、参考品(平面的な)等を張る様にする。その他木材の標本(單なる板のみでないものがよい)竹の種類、染色、標本、工具の種類などを陳列するもよい。児童がそれらを見てゐる中に自然に修得されるものは莫大なものであらう。この次にはこんな木をつかつて、こんな色に染めて見よう等といふ氣持が起る。この児童自らが製作しようとする意欲が貴いのである。

次に陳列棚を設け立體的な作品、各種工程標本などを陳列する。工程標本等は児童の製作によるものもよい。上級學年に於て製作し低學年の参考に供すといふ美しい協同行はれる。又そこには児童の未完作品もおく。又戸棚等にも参考品などを入れておく様にする。斯様に環境を整へておくと児童は自然にそれ等に心を引かれ、手をふれ、説明を読み、作品を鑑賞する。そして自分が今度作る時にはこう作らうなどと思ふ。そして工程標本も又その過程を研究しようとする参考品をあさる様になる、又そこに整頓された然も同時に故障のない正常な状態の機械器具がある時、早くこの道具を使つて見たい、これで木を切り竹を削つてみたいなどといふ氣持が湧く様になるものである。その他季節的なニュース例へば模型航空機の大會、發明工夫展覽會の豫告、その成績など出来れば全國の動きにも注意させる様にすれば、元來子供は活動的で動くこと動かすことを好むものであるから、必ず工作に興味をもつであらう。好きになればそれだけで何によらず半ば成功といへるであらう。工夫された環境の整備こそ急務である。物資の不自由な



中に於ても充分考へて努力し整備すべきである。

### Ⅲ、授業の實際

「初等科工作二、男17、橋」の教材があるが、この記録は、初五女に實施した結果である。この児童は前學年で「初等科工作」——現在の内容では——を取扱つてゐない。「橋梁」の教材、その指導法は種々研究され、發表されてゐるが、ここでは授業の實際を具體的に記述し、初四、工作二、17橋、初五六程度のこれに類する教材の参考としてみた。

#### 初五女 藝能科工作授業案

題目 橋（工夫製作）

目的 材料（細木、木片、竹ひこ、糸、紐、中厚紙、厚紙等）の性質を徹底的に研究し、之を生かし橋の模型を工夫設計製作させ、力學的構成と美的構成とに對する工夫力を練る。

#### 指導の重點

- 1、材質の研究
- 2、橋の力學的構成

教材と児童

- 1、橋には簡単な橋から土木學の粹を集めた複雑な構成のものまである。材料、形、構成の上からも工夫の部分

多く構成力の修練と工夫力を養ふにはよい。

- 2、細木・木片・竹ひこ・糸・紐・中厚紙・厚紙等の材質の研究を徹底させる。

張力材——糸・針金・紐・綱・網等

張力壓力材——細木・木の棒・竹材・鐵材等

壓力材——石・木片・コンクリート・粘土・煉瓦等

これ等の抗張力・抗壓力の利用を考へる。

- 3、架構（骨組）を丈夫にする法——壓力と張力との關係を考慮してのスジカヒの入れ方の研究。

- 4、棒狀のトンネの研究——ドーム（圓屋根）の丈夫さは、頂點に上から力を加へると、それが四方に傳はつてドーム線は互にもち合ひをなす。これが板狀になると曲げて（トンネ）上から押すと兩縁でドームの様に連続しないので左右に開く、兩端を止めると強さが出る。トンネが發展すると一本の彎曲した棒になる。これの具體的研究。

- 5、曲能率と剪力

一本の棒に力を加へた時に棒の中におこる關係——棒の一端がしつかりとまつてゐる場合には、棒の先に力を加へたとすると、棒を折る力は、もとは大きく先に行く程段々に小さくなり、遂にゼロになる。

- 6、以上の事項をもとに、これを総合的に研究して、橋を工夫製作させる。

#### 時間配當



第一時 材質の研究、橋の力學的構成の基礎的研究

第二時 橋の設計、組立(基礎的)

第三時 組立

第四時 組立

第五時 組立及鑑賞批判

授業過程

第一時

1、用具材料の準備

2、細木(長さ二十糎)を板の上に立てる

細木……抗壓力、糸……抗張力

張力材、張力壓力材、壓力材の具體的研究

3、骨組を丈夫にすること

□のわくを與へ、スジカヒの入れ方の研究

×を與へ、これを動かす様にすること

4、棒狀トンネの研究

薄紙にて砂をすくふこと

粘土板を積んでトンネを作る

5、曲能率と剪力に就いて

6、學習のまとめ、研究事項を用ひて「橋」を作ること

7、次時への連絡

橋の觀察(附近)、橋の寫眞の蒐集、新しい橋を工夫考案して設計すること

第二時

1、橋に就いての話し合

2、前時研究せる材質、力學的構成の反省

3、橋の設計

4、臺板の兩端へ土手となるべき角材をつける

5、橋製作の條件

イ、兩端の土手から土手までの距離四十糎

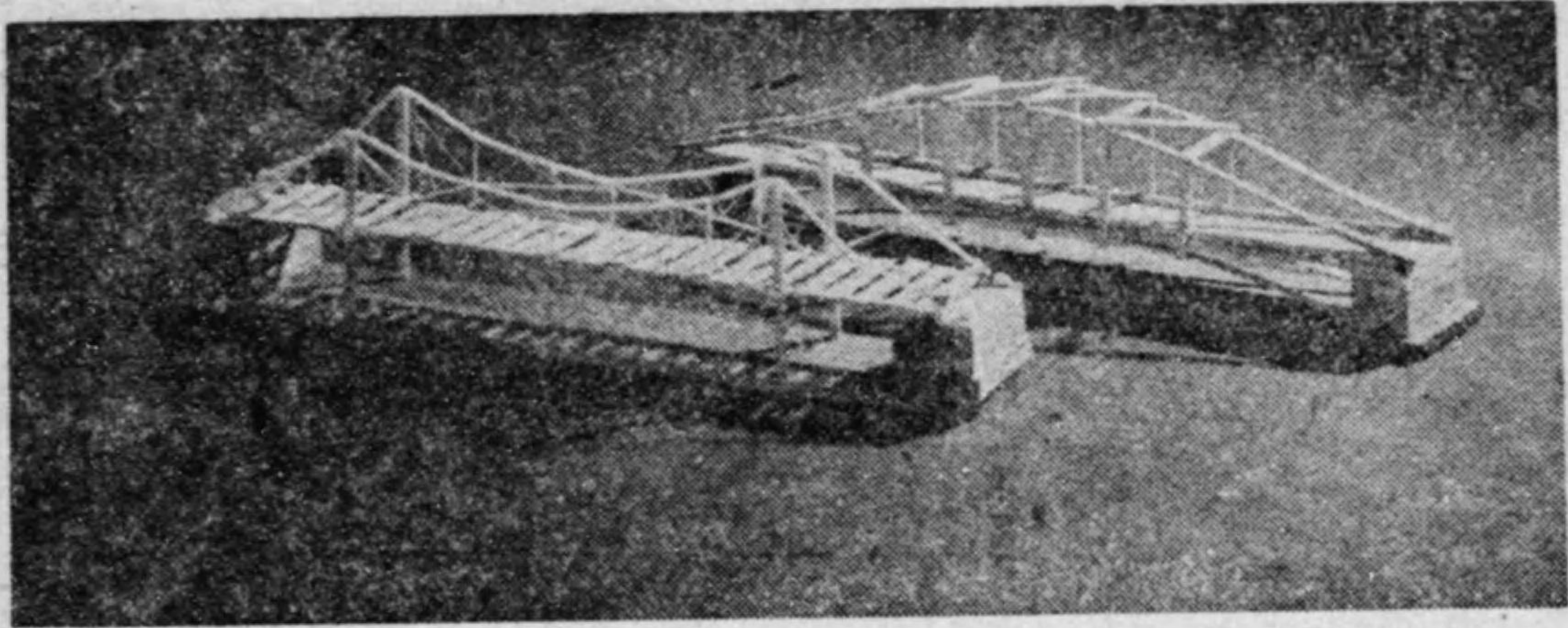
ロ、その中間に柱を立てぬこと

ハ、丈夫に作ること

6、設計による組立

基本的構成

7、本時の反省





第三時

1、前時學習の反省

基本的構成が力學的に見てよいか

如何なる力を利用したか

これ以上補強する方法はないか

2、細部にわたる組立

3、技能の修練——棒の曲げ方、棒の切斷、糸のしぼり方等

4、本時の反省

第四時

1、前時までの作品及製作過程の反省

2、細部にわたる研究

細部についても力學的構成を考へる事

技能の修練——釘の打ち方、糸のしぼり方

3、機能的に見て無駄な構成はないか

4、本時の反省

第五時

1、前時までの作品及製作過程の反省

2、組立——総合的注意、仕上げ

3、作品の提出

4、作品の鑑賞批判

イ、力學的に見て如何

ロ、材質を生かして用ひたか

ハ、橋のもつ構成美

以下授業の實際について詳述する。(授業案指導過程の番號と比較されたい。)

——第一時——

1、用具材料の準備

兒童——細木(二十纏)・糸・釘(蟲針)・板・砂・薄手の紙・細木の屑・金槌・釘ぬき・ヤットコ等。

教師——兒童の用具材料の他に、縄・竹棒・木棒・粘土・煉瓦・分銅等。

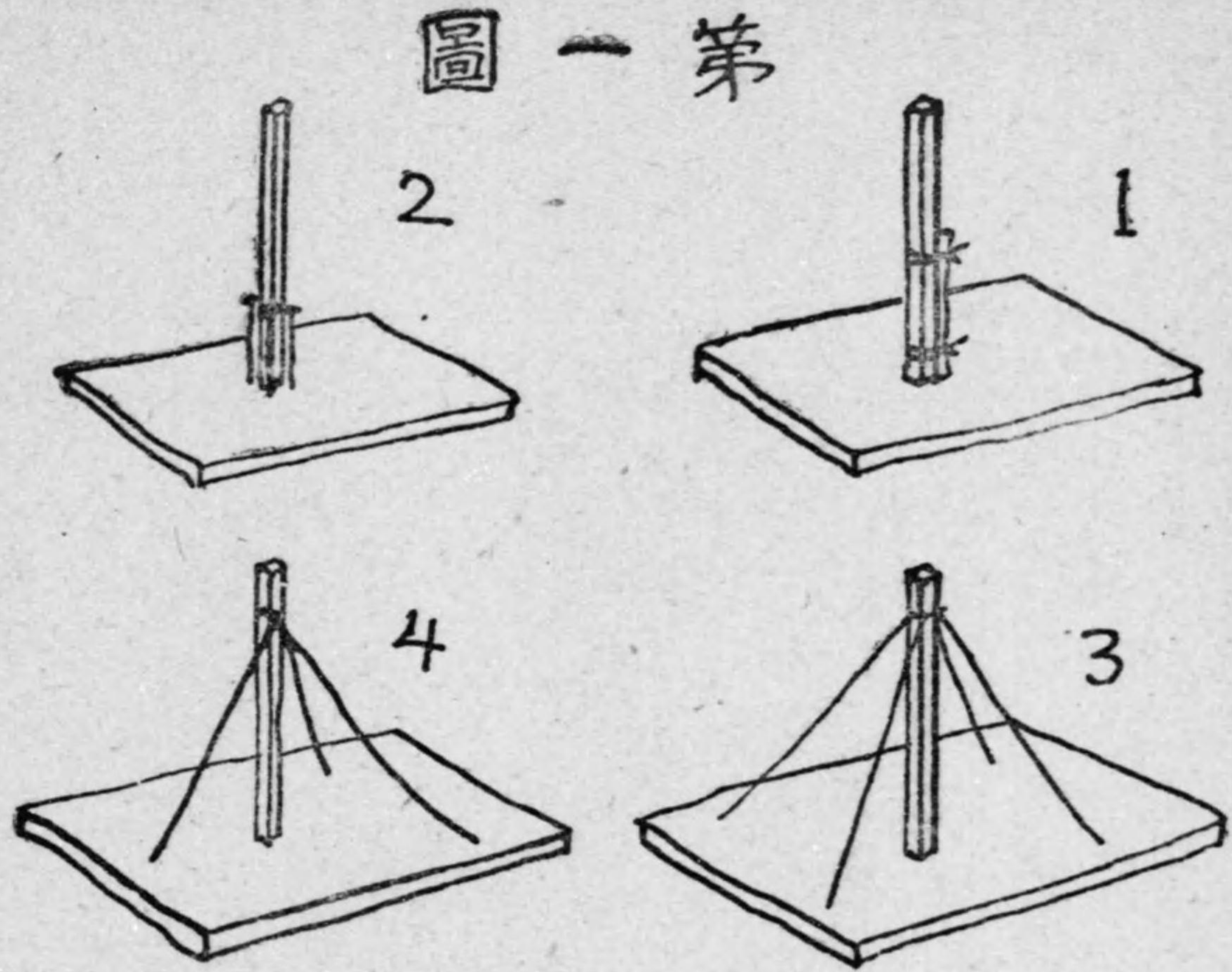
(工作机一臺に對し四人組が位置する)

2、細木を板の上に立てる

教「板の上にこの細木(二十纏)を垂直に立てて下さい。机の上にある材料用具は使つてよい。五分間に。」

(各組とも相互話をしながら作業開始、教師はこの間机間巡視、特別指導せず兒童の作業を注視する)





第一圖

教「止めて下さい。うまく立ちましたか。」  
 兒「立ちました。」「立ちません。」  
 結果を見ると、

イ、釘にて短い細木を立てそれに二十程細木をしぼりつけたもの……一組(第一圖1)

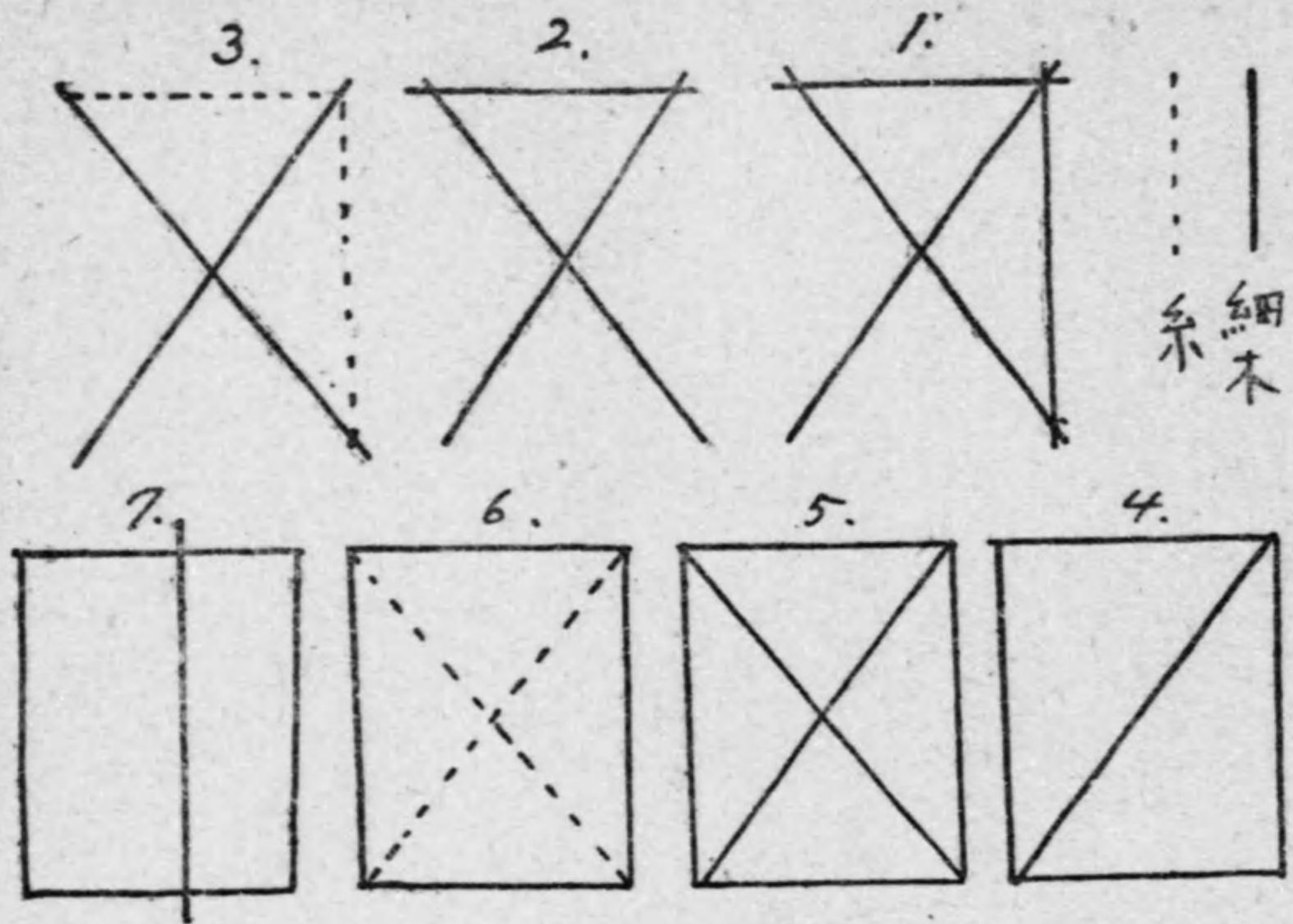
ロ、細木の周囲に釘をうつつて立てたもの……四組(第一圖2)

ハ、糸を張つて立てたもの(四本(第一圖3)……三組(三本(第一圖4)……二組細木への糸の高さに高低あり

これ等につき強さを研究する。12はくらくらする。2はさかさにしたならばたんと落ちてしまった。12は適當でないとの結論を兒童は下した。3については糸の数が問題になる。三本で充分といふことになる。又細木にしぼつた糸の高さが問題になつた。取扱つてゐるうちに、低いものがひつくりかへてしまつたので、自ら解決出来た。ここで立つ理由の研究が行はれる。兒童はどしどし例を挙げ

る。端午運動會の鯉のぼりの竿を立てる時、テントを張る時等。

第二圖



細木  
糸

糸は引張つてゐる。細木は下へ壓せられてゐる。ここで材質の研究に入る。(兒童を前に集合させる)綱を出し二名に引張らせる。次に押させる。結果は自らわかる。次に竹棒・木棒で棒押し、棒引きをやらせる。ここで綱は張る力にたえる力を持ち、竹棒・木棒は壓する力にたえる力と引張る力にたえる力を持つといふことがわかる。又粘土を両手にて壓してみる、引張つてみる。

張力材……糸・針金・紐・綱・網等

張力壓力材……木の棒・竹材・鐵材等

壓力材……石・木片・コンクリート・煉瓦・粘土等をまとめて話す。(この用語をしたわけではない。)コンクリートの

鐵筋を問題に出した兒童があつた。

3、骨組を丈夫にすること

□を六組に×を四組に與へ、これを動かない様にする問題を與へる。(五分間にて)結果は第二圖の如きものが出た。

- 1……二組
- 2……一組
- 3……一組
- 4……三組
- 5……一組



6:一組 7:一組

これにつき強度を研究し検討する。

12では2だけで充分だといつてゐた。(ただ動かない様にするならば)

3は他の組の児童も感心してゐた。糸の張力を利用した點で。但し糸で何とかしようとしてゐて偶然に出来たのかもしれない。

45も強くても動かないが、4よりも5の方が丈夫だといふ。

6も糸の張力を利用した點をほめる。

7は丈夫だといふので押して見たら動いたので結論が自ら出た。

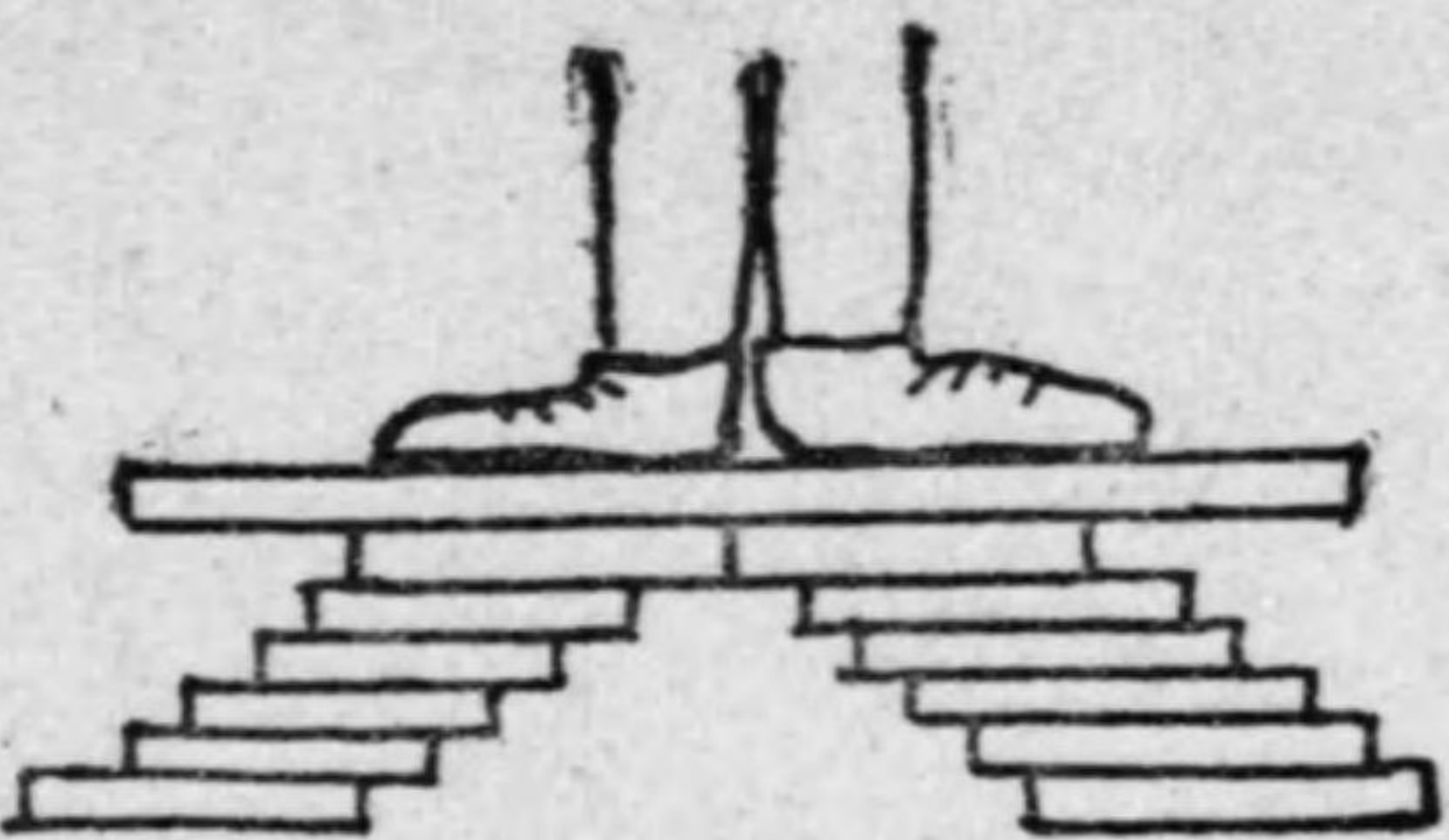
これでスジカヒを入れて骨組を丈夫にすることがわかる。實例が児童より出る。廊下の柱に屋根を支へるために用ひてある。〇〇病院の白壁に茶色に×の木が見える。驛の改札の手すりに使つてある等。

4、棒状トンネの研究

次に机上の砂を薄紙にてすくはせる。平面のままやつてすくへない。いろいろやつてゐる。

すくへる時すくへない時の比較によつて、半圓にするとよくすくへるといふ。(又前方に集合)粘土板を第三圖の様に積む。一児童の上に乘らせる。くずれるのを恐れてなかなか乗ら

ない。乗つて見て大丈夫となると皆乗りたがる。ここでトンネに就いての研究が出来る。八幡宮の太鼓橋について



は平素見てゐるだけあつて興味があつたらしい。トンネルも話に出る。

5、曲能率と剪力に就いて

細木の先に分銅をつけたものを机端から次第に出していく。(第四圖参照)棒の折れたことによつて自ら理解出来る。

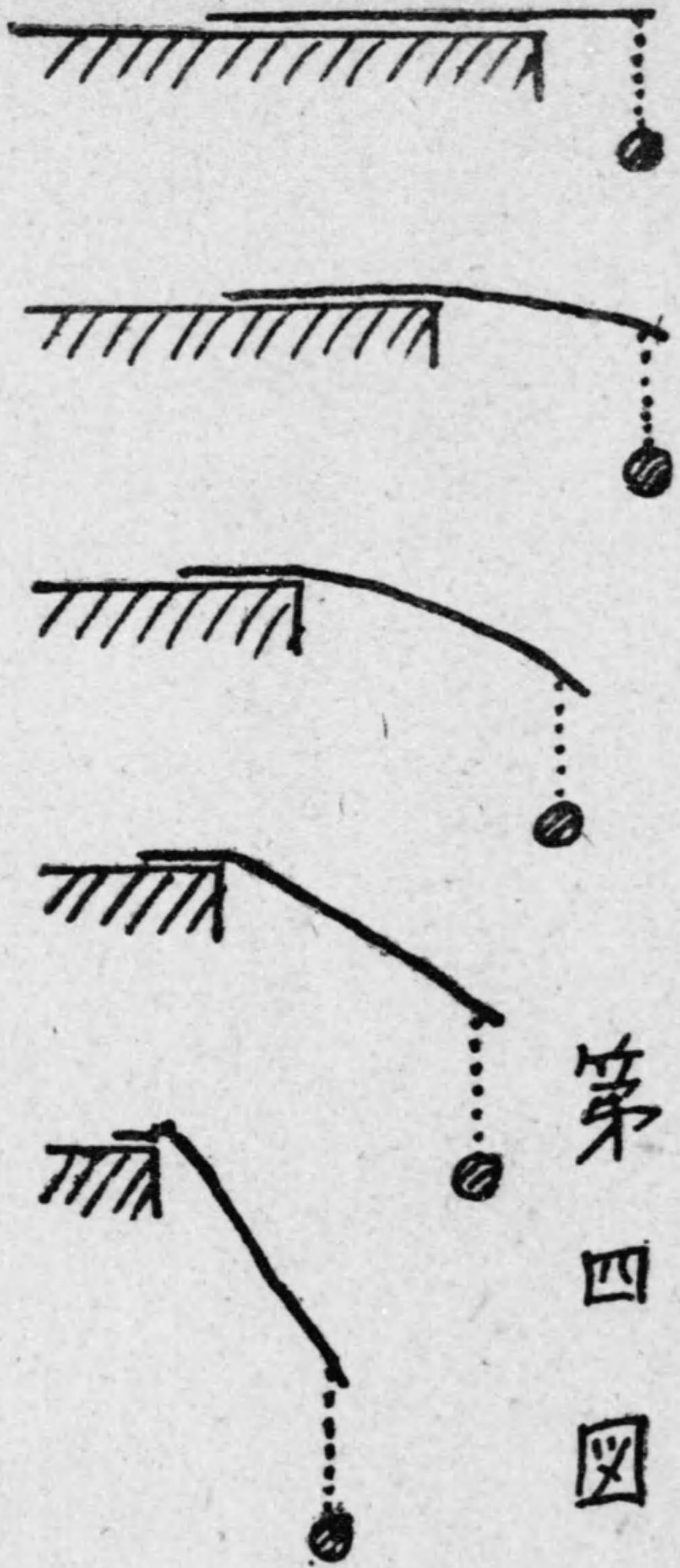
6、學習のまとめ

第四圖

材質及力學的構成を考慮して橋の模型を作ること。

7、次時への連絡

附近の橋の觀察—  
—八幡宮の太鼓橋  
・土橋・水道橋・  
ガード・その他。  
橋の寫真蒐集



新しい橋を工夫考案して設計すること。

第二時からは参考となるべき點のみを擧げることとする。(番號は教案授業過程と照應する)

—— 第二時 ——



1、橋についての話合  
八幡宮の太鼓橋、土橋・滑川尻のドンドン橋・水道橋・ガードが問題となり、東京の橋繪葉書・橋の美學・温泉地の橋の繪葉書が蒐集された。

2、橋の設計

簡単な圖を描かせただけである。もう少し徹底した研究をさせた方がよかつたと思はれる。

3、臺板の兩端へ土手となるべき角材をつける。角材は、各自に廢物を持つて來て利用させたのであるが、木によつては作業のしにくいものもあり、多少困難を感じた兒童が二三あつた。

4、橋製作の條件

イ、兩端の土手から土手まで距離四十糎（第五圖参照）

ロ、その中間に柱を立てぬこと。

ハ、丈夫に作ること。

イの條件により作品に大小なく作業には手頃の大きさであつた。なほイ、ロの條件により全兒童が同じ條件で作業したので、工夫製作させる立場からも面白く、強度を比較するにも都合よく、好結果が得られた。ロの條件にはかなり困つてゐた。ロの條件は破つたものもあつた。（一八七頁寫眞参照、下のは良く出來てゐるが、ロの條件は破つてゐる）

—— 第三時 ——

1、前時學習の反省

ここで設計とは異つてさらに發展的に製作していつたものが數名あつた。

—— 第四時 ——

2、細部にわたる研究

細部についても力學的構成を考へさせたのであるが、作品の結果から見ても不充分の點がかなりあつた。例へば吊るべきところが吊つてなく、外見上ただ竹ひごが入つてゐるとか。（第五圖イ）吊つて止めるところを上から釘が打つてあるとか。下から支へるところを支へず引張つてあるとか。（第五圖ロ）……

3、機能的に見て無駄な構成はないか

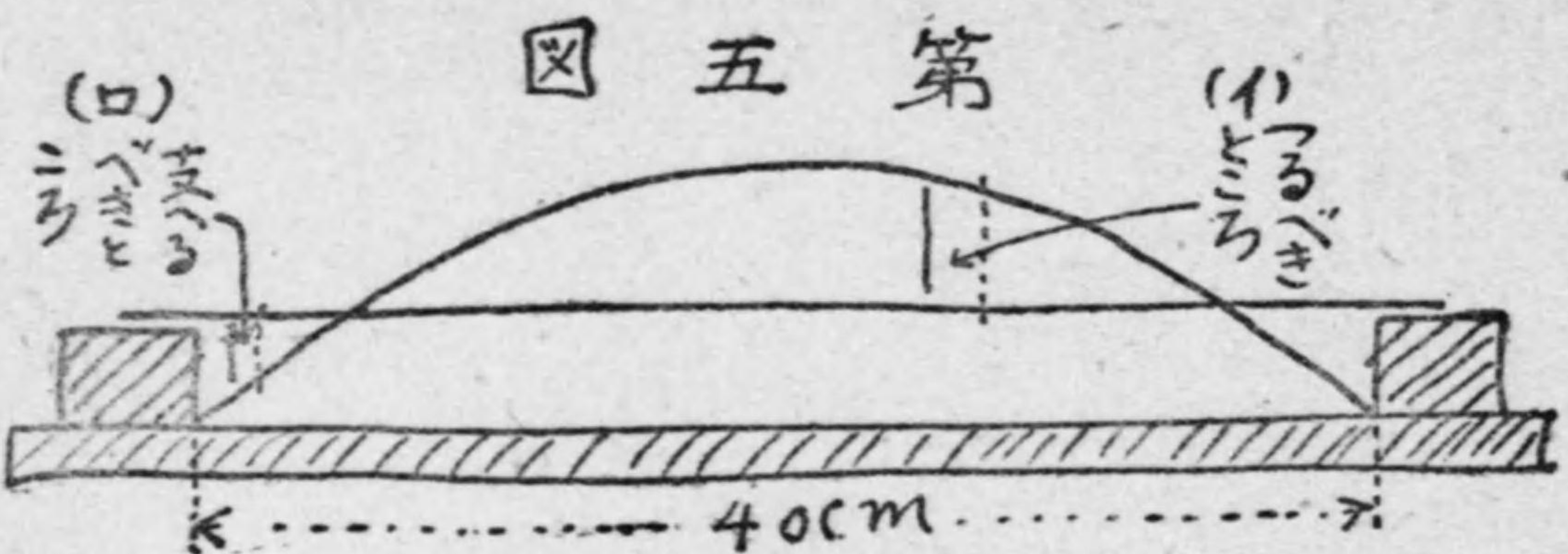
必要以外のところに支柱を入れ、糸で吊つたりしてゐた。

第三・四時2、技能の修練では困難な點として、釘（蟲針）を打つこと、細木と細木にて釘を打つに支へる場所がないため困難であつたらしい。しかし工夫すれば（机の角を利用、木屑を間にはさむ等）もつと效果的に作業が出來たであらう。糸のしぼり方では無駄に巻きすぎたもの。力のことを考へずにただ巻くもの等があつた。

—— 第五時 ——

4、作品の鑑賞批判

○橋は上下には強く出來たが、左右には多少弱いものがあつた。そこまで考へなかつ





たらしい児童がかなりあつた。

○強度を見る時に橋の中央へ力を加へてしらべる。これにより良否がただちにわかる。加へられた力が何れの方  
向に傳はつていくかがわかる。吊橋の糸の吊の方の良否など實によくわかる。なほ細木の組合せになるものも、釘  
の効果などこれによつてよくわかる。

○強度の點からいへばかなり成功した結果が得られた。

○技術的に見て一層の修練が必要である。

歸途作品を持つて歩いてゐると、大人にこれは何かと説明を聞かれたといふ。力學的な考慮をして橋を製作したこ  
とを話すのたいへんでしたと嬉しさうに言つてゐた。

## 第五章 國防強化と家事教育

### 一、家事教育と國防

#### 一、國家的自覺に基づく女子の任務

古來より我が國では家風を尊重して家を齊へ夫に貞淑を至し、舅姑に對して孝養を盡し、子女を愛育する等の事は  
女子の任務であるとされて居た。この任務をはたす爲に己を没して家族の中に生き、黙々として家の爲家族の爲に盡

し、云はゞ消極的な力に於て女性本來の面目を發揮しながら、現代に於ける様な家族制度を作り上げたのである。こ  
の様な獻身奉仕の精神は、家を國家組織の單位とする我國では、それはやがて國に報ずるの精神となるべきである。  
然るに長い傳統を持つ女子の務は以上の様な長所を持つと同時に、狭い家庭と云ふ社會にのみ生活して居た爲に廣く  
新時代の生活を考へると云ふ考へが少なく、又一方西洋文化の輸入は我國本來の家庭に浸潤し、その結果は家庭の經  
營が個人主義的となり、家族主義的利己主義となつて現はれ、我が家の生活が絶對的のものとなり少しも他を顧みな  
いと云ふ結果に陥つたのである。外に非常時を口にして買溜の不徳を攻撃するも、一度家に入れば、口と生活とは別個  
の問題となつて買溜、買漁りが平然として行はれて居る。行列買はよくないと言ひながら、一時間も二時間も前から  
店頭立つて翌日分までも買込む。一人では足りないで家族總出で店頭に並ぶ。これでは國防國家の建設は覺束ない。  
これは取りもなほさず女性に國家的觀念が缺除して居て、唯我が家、我が家族の事のみを考へる結果の現はれである  
我が國は今有史以來の大使命を達成しようとして居る。この使命を實現するには國民は今後百年の戰爭をも覺悟して  
居なければならぬ。この様な重大時局に於ての女性としての大事な心掛は何ををいても、先づ國家的な自覺を持たせ  
る事である。これによつて我が國本來の家庭が見出され、この認識によつて、家庭の生活が再検討され再樹立されな  
ければならぬ。そこに始めて我が國本來の眞の家庭が建設されるのであると思ふ。この様な時家事教育では國家の眞  
の姿を見つめつゝ、一家の幸福と向上發展につとめ確固たる國家的自覺を持たしめる様に指導する事は大切である。

#### 二、科學的態度の養成



決戦下に於ける我が國では現在各方面に涉つて仕事が増加し、勞力の不足は深刻な問題となつてゐる。從來の様に一人が一人前の仕事をして居ればよいと云ふ様な考へ方では、到底必勝を期する事は出来ない。一人半も二人前も働き抜くと云ふ信念があつて、始めて大使命の完徹もなし遂げられるのである。それには先づ從來の家庭を再検討し、家政の處理をもつと簡単に能率的に改める事が急務である。生活の簡素化には先づあらゆる部面を通して家庭を科學化することである。由來家庭の日常生活を眺めて見ると調理にしても掃除にしても、家計の切り盛にしてもその場主義的な何等科學的根據の自覺もなく、經驗や常識で處理する事が多かつた。これは決して一概に排斥するものではないが、これ等を合理化して行く處に科學的精神は養はれて行く。家庭の實務を科學的に處理して行く事は家庭經營上大切な事であるが、更に計劃的な生活が必要である。一つ／＼の事務は科學的に考へられても、家庭生活全般に涉つて計劃的な生活が行はなければ、それは本當の科學的な生活とは云へない。科學化された生活こそ現非常時下に於ては特に大切である。それは一家の經營にも仕事の能率の上にも大いに關係する事であるが、引いては直接國策にも影響する所が大きい。

### 三、婦徳の涵養

大東亞戰は我國婦人の力が如何に家庭の礎であるかと云ふ事を再検討させ再認識させた。あの赫々たる戰果の影に偉大なる母が、偉大なる妻がある事は多くの實例によつて明らかである。かの緒戦に當つて捨身を持つて敵の腹中深く飛び込み、猛烈之に第一誅を加へ、身も又眞珠灣の華と散つた特別攻撃隊の人達の母親をみると、平時に於ては何等

社會的に名聲を博した所謂賢婦人ではなく、寡黙實行、そして又勤勞愛好者であり、何れも慈愛深い温い愛情を持たれて居たと云ふ事である。この様な共通點を持つ日本の母から、あの様な忠勇無比な國民の生れたと云ふ事は今更日本の母の偉大さが認められる。然もその偉大さは、平凡な中に偉大なものを培ひつゝあつたと云ふ事が明らかになつた。兎角輕んぜられ勝であつた母の力も、戰爭といふ千古未曾有の大非常時に直面して燦然とかがやき渡つたのである。然してこの偉大な力は何によつて培はれたかと云へば、これに對する何等特別の施設も教育もあつた譯ではなく實に日常の家庭の仕事を通して培れて行つたのである。即ち己を捨て、家の爲に盡すことに眞に生甲斐を見出して何等それに對してむさぼる心なく、所謂没我奉仕の生活がその子を、その家族をして眞實なものに歸依せしめたのである。この様な生活が我國古來より女子の取り來つたもので、これが積り積つて所謂世界に冠たる婦徳は樹立されたのである。この様な長所を助長して行くことこそ、今後家事教育に與へられた使命である。この使命を達成するに最も具體的な家庭生活を外にしては、その効果は修め得るものとは思はれない。「國を治めんとせば先づ家を治めよ」と云ふ古き教訓を味はひ、家事教育が眞に國家の要望にこたへ、不動の家庭生活の礎を築くものであるとの考へが取り分け必要である。

### II、實踐上の諸問題

家事新教科書が發表されるまでの暫定的な指導の實際としては、國民學校の精神を如何に舊教科書に活用して行くかと云ふ事が考へられなければならないと思ふ。それには現下の時局から考へ教則の趣旨に基づき、實踐を通して如



何に國家的使命を自覺させて行くかと云ふ爲の實踐方途が考へられなければならない。以上の様な趣旨に基づいて次に細説を試みる。

### 一、祭事教材について

祭事は敬神崇祖の精神を明らかにして、之が實踐を指導するのであるが、先づ家庭が從來祭事に對して、どれ程關心が持たれて居たかと云ふ事に就て知る事は、祭事を取扱ふ上に大切な事である。從來最も生活化されたもので、國民の行事として擧げられるものに、先づ新年の祝、雛の節句、端午の節句、鎮守の祭、更に彼岸會等がある。これ等の國民的な行事は昔からこの家でも、家庭に於ける大なる行事として家庭經營の一部面を占めて居た。

然しながら國家としての行事である天長節、紀元節、明治節及び靖國神社の祭日には、從來家庭としてこれ等の祝祭日に對して何等の企劃もなく、一日を休養日として送つて居つた。これは現在の國家體制から見ても國柄から考へても大に是正しなければならないと思ふ。それと同時に家庭を司る女子としても大に反省する必要がある。家庭生活を實踐の場として行ふ家事教育では、前述の國民的行事と共に國家的行事を家庭生活の中に取り入れ、學校行事との關聯を考へつゝ行ふ事が大切である。

1、郷土に立脚して 祭事は之が實踐を通して敬神、崇祖の精神を明らかにし、更にその精神を日常の生活に如何に具現して行くかと云ふ所に指導の重點がある。言ひ換へれば家事に於ける祭事は、行を通してその精神を明らかにし、更に行することによつてその生活が眞實なものとなつて行かなければならない。

それにて先づ郷土に於ける風習を探り方法を知つて、これを基礎として精神を十分生かしつゝ合理的なものに導くことが大切である。例ば一般的な事としては、國旗の掲揚にしても、その日の意義を十分考へて正しく揚げる様になければならない。又床の間の飾りにしても、軸物を始め、活花にしても行事の意義を盛つたものを選び、奥ゆかしさを見せる事は女子として上品な教養である事を知らせる。更に神棚、佛壇の掃除及び飾り方、器具の磨き方等隅々に至るまで心を配り、清純な氣持で禮拜出来る様、眞心を持つて之に當る事が大切である。

2、行事料理の再検討 料理も地方々々によつて色々な行事料理が工夫されて居るが、長い傳統は中々生活の中に浸み込んで居て抜け切れず、舊態依然として、無い物を闇に求めてまでも風習を持ちつづけ様とする。この様な考へは國を亂す基であり、之は神佛の精神に違背する事を知らせ、これに代るべき時局に應じた料理の工合をなし十分精神をこめて、その日の意義を表はす様努力すべきである。

例へば國中が擧つて祝ふ天長節を取扱ふ場合、赤飯を炊いて祝ふ事は相應しい方法であるが、現在の状態では糯米を入手する事は中々困難である。従つて教材として赤飯を選ぶ事は六ヶ敷い。よつてこれに代る小豆飯になすとか、交ぜ飯でその日の意義を表はすとかする事も一方法である。小豆等も配給品の爲入手困難であるので、豫め一年間の料理材料で貯藏出来る食品を検べ、計畫的に農工作業に於て收穫を得るとか、或は校庭の隅々を利用して種子を播きその收穫を以て家事の實習材料にあてる事等は、今後の家事教育には大に考へなければならぬ事であると思ふ。これは兒童の家庭に於ての空閑地利用の實踐指導ともなるものである。長期戦下に於ける家庭は所謂消費面だけでなく生産にまで及ばなければならぬ實情に即し、家事教育に於ても廣く社會に順應する様計畫立てる事が大切である。



この様にして勤勞によつて得た材料を用ひ調理して神に捧げ祖先に供へると云ふ事は、眞實神を崇ひ祖先を尊ぶ心ともなり、これがやがては没我隨順の精神が養成されて行くもので、これこそ決戦下ゆるぎなき家庭の礎を築いて行く力となるものである。

3、行事との關聯を考へること 祭事は特に學校に於ける行事は勿論、家庭的な行事とも密接な關聯を持たせる事が大切である、例へば鎮守の祭にしても祭に先立つて來客に對する心得、祭料理、色々な催しもの等を見る時の注意等殊に農村等に於てはこの様な時風紀上の問題も起り勝である故、眞の祭の意義を知らしめ、これが實踐を指導する事が必要である。

## 二、敬老教材につきて

我が家の今日あるは祖先の賜物であり、これを立派に繁榮させて子孫に受け繼ぐことは祖先に對する務である。この様に我國の家庭は祖先より子孫につづく一連鎖であつて、現在の家はその一節を意味する。従つてこの様な家の中には父母許りでなく祖父母曾祖父母のある事は當然である。

老人は既に一家の爲に働いて義務をはたしたのであるから、之を尊敬しなければならない。これは又祖先崇拜に歸一するものであり、親に孝を盡す所以でもある。従つて之を敬愛し尊敬することは、我國の美風であると共に誠にゆかしいものである。戦時下に於ては特に斯の様な美風は、助長する様な指導が必要である。

老人への尊敬は「仕へ方」を通してその心持を現はす事で、老人の言動を批判し、之を蔑視する様な事は大に慎み、

深く老人を尊敬する所以を考へさせ、之に對する奉養の道を教へる事が大切である。仕へ方として大事な事は、

### 1、精神の慰安

尊敬の念を持つこと 仕へ方を通してその心持を現はす様に指導しなければならない。

同情の念を持つこと 老人は起居動作が不自由勝であるから同情をもつて之を助け、不自由や不安を感じしめないやうにすることが大切である。

何事も相談する 老人は長年の生活で經驗に富み、意見も穩健であるから何事によらず相談し、その意見を聞く様にする。さうすれば生活に張合が出来て孤獨寂寥の感を起さしめない。

娛樂を考へること 趣味娛樂によつて日々生活を楽しくする様に心掛けることが必要である。例へば神詣で寺参り植木いちり等身體の爲にもよく信仰によつて安心と慰安を得ることが出来る。

### 2、身體の養護

過度の運動は避け、衣服食物住居等特別な注意を拂ひ、何時も衛生的ですがすがしい感じで生活出来る様注意しなければならぬ。特に健康にも特別の注意を拂ひ、病氣に罹らぬ様注意すべきである。又按摩法を授けて老人が疲勞したる時は進んでこれを行ひ慰安する様心掛ける事も大切である。

### 3、身體の保護

老人は年毎に身體の抵抗も弱くなり、動作も不自由となり氣力も少くなり、動もすれば病氣や怪我に罹り易くなる。又僅かの怪我や病氣でも抵抗力が弱つて居る爲に思はぬ大事を引き起すことがあるから、輕いうちに處置する様心掛



くべきである。

### 三。育兒教材についで

大東亞戦争は國家の總力戦である。戦が長期に涉れば涉る程物資も必要であるが、それ以上に人的資源が必要である。前線に於ては勿論占領地の建設、銃後に於ける生産擴充等あらゆる面に涉つて人を要求して居る。従つて現下の我國では人口問題は聖戦を勝利に導く最後の鍵であると云つてもよい。結婚年齢低下運動と云ひ、子寶家庭の表彰と云ひ、健康優良兒の選定と云ひ、これは總べて人口問題解決への一つの現はれである。かく人的資源の必要な時我國に於ける乳幼時の死亡率が文明國中での優位を止むることは誠に寒心すべき状態であり、これが救済は女子の双肩にかかつて居る。これこそ戦時下皇國女性の最も大きな使命であると云はねばならぬ。この様な國家的使命をはたすには心身共に健全なる子供に育て上げると共に、女性の身體保健に留意して立派な子供を生んで、お國に捧げると云ふ自覺をもたせる事が大切である。

従來育兒と云へば兒童にも餘り興味を期待する事は困難で、單に子守に役立たせるに出でない程度であつた。然し今後の育兒は人口問題を基調として母性の生理保健より母親の教養環境が大なる關係を持つ所以を知らせ、更に乳幼時そのものの育て方については、體驗を通してこれが研究の大切なることを知らせる。

1、婦人の保健衛生 健全な胎兒は健全な母胎に宿る事から、平素婦人の保健衛生の必要な事を知らせ、日常の心掛として常に之が實行に務めさせる事が必要である。即ち體鍊科、理數科理科、裁縫との關聯を密接にし、榮養、

運動、休養、衣服の着方、月經時の注意及び手當その他衛生方面の注意は、やがて健康な母體を約束するものであることを知らせる。

2、育兒の科學化 兒童は家庭に於て或は親戚近隣等に於て若干の育兒知識は收得して居ると思ふ。然しながらそれは多くは祖母母姉等の長年の經驗に基づくものが多く、科學的な考察の下に育兒を行ふ母親は極く稀であり、應々にして俚俗な迷信にまどわされ、不合理を何等意に介せず行ふ事等大變多いと思ふ。従つて實際指導に當つては殊に教科書中の哺乳、乳兒の衛生離乳に於てその土地の風習、習慣等各方面より觀察して正しい育兒の方法を知らせる事が肝要である。殊に乳幼時の死亡は離乳期が最も多いと云はれて居る點よりしても離乳期の取扱は特別意を用ひる必要がある。

3、育兒の生活化 育兒法は女子生涯の仕事で單なる家庭内の事務ではない。更に又育兒は「大御寶」を守り育てて行く國家の大きな役割を課せられて居るのである。従つてそこには母を助ける爲の育兒であると同時に、國家の育兒に參與して居る心構へをはたせる事は必要である。然して實際の取扱ひに於ては出来るだけ具體に即し、實習を通して體驗させる事が必要である。殊に乳兒の衛生の所に置ける抱き方負ひ方等は人形を用ひて正しい抱き方負ひ方を知らせ、更に抱く事により負ふ事によつて、乳兒の衣服、負ひ紐等の考察が考へられてくる。なほその他のものもなるべく體驗を通しての理解でなければ實際の生活には溶け込み悪いと思ふ。かくして得た知識は家庭に於ての母の手傳となり、更に母に代つて面倒を見るだけの力となつて表はれる様指導する事が大切である。なほ家庭に乳幼時の居ない時は親戚或は隣組等の理解を得てお手傳をさせて戴き、非常の場合にも我が家の乳幼兒許りでなく、隣組に於け



る乳幼児までも引き受けて立派に務をはたす事の出来得る様、眼前の問題として眞剣に之を考へさせる事が大切である。家庭での育児は乳幼児の生活、發育、疾病、食事等全般に涉つて系統的に實習する事は出来ないが、朝夕断片的に一部分づつの實習にはなるが、毎日連続的に取扱ふことによつて、そこに一つの育児の系統が逐次築かれて行く。故に日々経験した事はこれを記載させ、新しい経験に出會つた時或は之に對する母の處置等はくはしく記させ、この中の事項をもとにして學習が行はなければならない。更に學習で得た知識は日々の研究の資になる様導くことによつて、育児が兒童の生活として生きてくる。なほ時折は托兒所等の參觀を行ひ廣く知識を求めさせる事も必要である。要は單なる知識に終らず、得た知識は日々の生活の中に實踐されると同時に、非常時下に於ける兒童の育児の知識が家庭及社會にまで役立たしむることが大切である。

#### 四、衛生看護教材について

1、衛生について 大東亞建設と云ふ大使命完遂の爲には、前線と銃後とを問はず國民のすべてが希はねばならない重大な事柄である。保健衛生の問題は積極的にも食糧問題が伴ふが、家事に於ては國民の日常衛生殊に家庭衛生に重點を置き、國民の身體を總べて大君に捧げ奉るべきかけがへのないものであり、身體の強健なる事が國民としてその務を完ふする第一條件であると云ふ事に思ひを至させる事が大切である。

これが實際指導としては病氣豫防としての衛生から、更に如何にして健康を得るかと云ふ日常生活の衛生實踐を通して健康報國の念に培ふ事である。

それにも先づ郷土に於ける衛生思想の高低、死亡率、榮養状態、特有の病氣、傳染病に對する知識の有無、長壽者の有無より更に住居の衛生的觀察に至るまで土地の實情を調査し、その上に立つての指導が行はなければならない。

衛生教材の内容として挙げられるものは、

住居 衛生的觀點より設備の改良、日常の掃除、大掃除、中掃除

食物 榮養、偏食の害、食物と腐敗

衣類 衣服の清潔、寢具の清潔

身體 清潔、睡眠、休養、運動

更に傳染病に對する豫防消毒等。

これ等は體鍊科との密接な關聯の下に行なはるべきである。

2、看護 更に衛生が病氣豫防に對する積極的方面とすればその消極的方面は看護である。

看護は實際生活に於ける病氣を基として取扱ふ事が大切である。即ち看護學を知らせるのではなく、看護の仕方を知らせるのである。従つて教科書による看護教材もこの意味よりもつと生活化することが大切である。

例へば診察と云ふ事も手遅れにしたり、誤つた處置をなさぬ様に醫師の診察を受けることは最善の方法であるが、手遅れにならない程度の看護を知つて置く事は大切である。

「生兵法は怪我の因」と云ふが、素人所置にのみ頼る事はよくないが、醫師に罹らなくとも家庭療法で治る程度の輕



症に對する看護も必要である。

3、病氣の具體に即して 教科書にあげてある看護も手當も極めて抽象的であるが、もつと病氣の具體に即して取扱ふ事が必要である。従つて「第十八課看護」と「第十九課病人の手當」とは平行して行くべきである。例へば風邪を引いて高熱があると云ふ場合、醫師の指圖により看護をする時、手當なき看護は望めない。その場／＼に應じた手當をする事により看護は全きを得る。この意味に於て具體的な病氣を中心として合理的に實際的に看護が行なはなければならぬ。

4、衛生室の家事化 看護當番を設け學習により得た體驗を、衛生室の看護事務に應用させることは看護を生活化する上の良策である。これは單なる看護當番でなく、どこまでも學校の衛生を擔當すると云ふ態度で教師指導の下に腹痛、擦過傷、腦貧血の手當に参加させると云ふ事は意義ある事である。又常備藥及衛生用具の使用法もこの際實際的に指導し得る。

5、國防衛生の強化 決戦下に於ては特に國防衛生が必要である。それには救急處置、看護法等災害に當つても自信を持つてこれに處するだけの充分なる知識と技術を持たしむる事が大切である。それには少年團との關聯及び家庭防空群との關聯を計り、繙帶の巻き方、毒瓦斯により倒れたるものの處理、人工呼吸法、或は爆彈による怪我、燒夷彈による火傷等に遭遇したる場合、あわてず立派に務をはたす事の出来るだけの修練を積んで置く必要がある。即ち看護の力を以て防空に協力するの信念を持たしめることが肝要である。

6、家庭常備藥の準備 家庭常備藥としては、頭痛、齒痛、下痢止、感冒、創傷等各種の化學藥品がある。然し

ながら現在藥品は原料不足とその他の原因で大變不足を來たして居る。かかる折から化學藥品にのみ依存することなく、漢法醫藥として古來より人口に膾炙されて居るものの藥草を採集し、これが貯藏を指導して平生より常備して置く必要を知らしめる。又作り方に就ても分量、火加減、時間等實際に體驗せしめ、服用分量等の指導も行ふ。なほ非常用としての藥品繙帶等に就ても用器、置場所に注意し、非常時に直ちに間に合ふ様な指導が必要である。

### 五、食物教材について

日本が大東亞の指導者としてこの大事業を完遂するには、國民のあらゆる方面に向つての總力が必要であるが、この總力を發揮する爲には先づ國民の健康が大切である。健康を保つ上には空氣、日光、衣服、住居等生活が衛生的である事が考へられるが、特に食生活の合理化と云ふ事は時局下その重要さを痛感する。即ち乳幼兒の死亡率の高い事や壯丁の體位の低下、結核患者の續出等の事を考へる時、原因は種々あるとは云ふものの榮養が最も大なる原因となつてゐる。殊に生活必需品の不足勝な現在、それを克服して家族の健康を圖ることは現在及び今後と與へられた女子の責務である。食生活の合理化は常に家庭經濟の上許りでなく、國家の經濟及び國民保健と云ふ國家的見地よりするも大切な問題である。

これが指導に當つては現下の狀勢に即應して物の不足に不平を云はず、配給された材料を如何にうまく利用するか不足な材料で如何に心豊かに生活出来るかと云ふ事が考へられなければならない。然もそれは常に榮養に基礎を置き足りないものも心の用ひ方で立派に切り抜ける事が出来る自信を持つて指導する事が大切である。



1、栄養について 不足な材料をうまく利用して、家族の健康を保持するには先づ栄養の知識が必要である。これは料理をする上にも献立を作製する上にも基礎となるものであるから、調理に先立つて授ける事が大切である。栄養的知識は高二「食物の成分」の所で一括して授ける事になつて居るが、これは栄養の知識をここでわからせて終ふといふのではなく、今後献立や調理をする場合食物の栄養的考察をする事によつて、一般的知識が具體に即して確實化されて行く爲のものであり、従つて純理論的に授けるのではなく、どこまでも生活に即してその栄養を究明して行く態度で取扱ひたい。なほ實際調理に當つては最後に栄養的吟味をする事も大切であるが、それよりも一つ一つの食品に就ての栄養を明らかにし、その損失を最少限度に留める調理の工夫と同時に、更に捨てる部分を再吟味し、従来習慣的に行つて居た無駄な調理を再検討して可食分は出来るだけ利用する様な心掛けが必要である。例へば高一「米飯の炊き方」に於いても、磨ぎ水をそのまま捨てて終はず、澱粉の溶けてゐるきれいな所を利用して味噌汁を作れば、米の栄養の損失も少なく然も美味しいと云ふ様になつて一舉兩得ともなる。この心掛は物資不足の現在あらゆる食生活に考へられて行かなければならないと思ふ。なほ食用植物に就ての栄養価値を知り、それを利用することも物資不足を補ふ一助ともなる。春の野の摘草も忙中閑ある生活を樂しむもので、摘んだたんぼぼは晩の食膳を賑はすと同時に、ビタミンBを多量に含有して居る事から、ビタミンB不足を補ふに良い食品である事をわからせる。

2、献立について 献立の最も大切な事は毎回食を合理化する事である。即ち朝、晝、晩とも毎回の食事は成分と分量を正しい比率に保たしめる事が理想である。然しながら物の不足は毎日の献立に理想的な成分配分を要求する事は六ヶ敷い。不足であるからと云つて自暴的に何等工夫する所のない事は、國家を危くする基ともなる。即ち不足

な材料から最大の効果を収める様献立を作製し調理を工夫する事は、臺所をあづかるもの大切な心掛であり、食物を通して國に報ずる心構へともなる。

なほ献立は兒童の日常生活の上に立つたもので、然もそれは毎回食の合理化に着眼する所がなければならぬ。

例へば高一「煮メ」と「澄汁」とを合せれば立派な献立料理となる。この場合基礎的なものを二種取扱ふことによつて徹底を缺く恐れもある様に考へるが、この場合煮メはどこまでも基礎的な調理としてその取扱ひに重點を置き、澄汁は次の「すゐとん」に於て基礎的な扱ひをするとして、ここでは簡単に作り方を考へさせ工夫させる。又「米と米飯」「味噌汁」とを合せて朝の献立となし、合理的な調理法と栄養的な考察とを行ふ。この様に單なる献立でなく毎回食を目指しその献立により實習する事は調理を生活化することにもなり、更に當然の必要から辨當料理も考へられてくる。従つて調理法の修練も自ら止揚され、深化されて調理を通して家庭の日常食も改善されて行く。

3、郷土の實情に即して 食物教材は郷土の日常食に土臺を置くことは献立の所で述べたが、更に之を検討し改善することによつて始めてその郷土に即應した合理的な生活化されたものとなる。それには郷土の食物及びその調理法をよく知る事である。即ち郷土人の健康からその日常食を知り、その缺陷とする所を把握してこれが改善を期する事が大切である。然しながら郷土の日常食のみに依存する事は内容が制限され、何等新鮮味がなくて廣く合理化を計ることに困難を感じる。従つてその郷土人の嗜好に適する様な日常食を廣く採り入れて内容を豊富に充實せしめる事は大切である。例へばライスカレー、シチュー、沙飯等は調理法も簡單で栄養も総合され材料も應用自在で理想的なものである。



更に調理は一聯の系統を考へつつ採り入れる事も、各種の調理法を知る上から大切な事である。勿論系統に拘泥する事は、徒に調理を抽象化して調理せんが爲の調理となつて、日常生活に喰ひ入るもとはならない恐れがある。

左に参考として高一、二教科書により調理教材を系統的に類型してみる。

高 一

飯の炊き方 米飯、麥飯

汁 物 味噌汁、清汁、するとん

煮 物 煮メ、煮魚

ゆで物 ゆで卵

焼 物 焼魚

高 二

飯の炊き方 赤飯、お萩、栗飯、おもゆ、おかゆ、おぢや、ちらし壽司

汁 物 大根わかめの呉汁、鰯の摺身と葱の清汁、煮込うどん、卵豆腐の清汁、きの子と豆腐の葛かけ汁

雑煮、貝の潮汁

煮 物 筍、切鰯の煮メ、切干、大根と櫻えびの煮付、馬鈴薯と莢豌豆の煮付、煮豆、口取、肉の調理

和へ物 キヤベツの胡麻和、あさつきの酢味噌和

酢の物 胡瓜とトマトの酢の物、鯨

焼 物 あちの鹽焼、茄子のしぎ焼、厚焼卵

蒸 物 蒸ばん、つぶし馬鈴薯、ブディング

揚 物 揚物

いり物 胡麻鹽、切鰯、照ごまめ、豆煎

漬 物 胡瓜の鹽漬、キヤベツのざみ漬

4、材料に就て 調理に就て最も困難を感じる事は材料である。材料に就ての対策はその折々に就て述べたが、

先づ第一に心得べき事は、我が郷土の食品に就て正しき認識を持たせる事である。然してそれ等食品を利用する事によつて各種の調理法も生れて來、又物資不足も緩和される。次に大切な事は配給食品を期間内にうまく使用する爲の計畫である。それには米に對しては節米及び混食が考へられ、調味料に就ては一ヶ月一人の割當量から一日の割當量がどの位であるかを知らせ、これをもとにして合理的な甘付けを工夫する事が必要である。

更に材料に就ては可食物は料理の工夫により無駄なく使用する事につとめ、一粒の米も無駄なき様指導し、物に對して感謝の念を持たせる事が大切である。

なほ原野に於ける食用植物の利用とか、空閑地利用によつて、物資の不足に對して拱手傍觀的態度でなく進んで生産的部面も企圖する様な指導が大切である。されば家事教育に於ても材料の自給を計り、一年間の計畫を立てて農業實習により之が自給を考へる事は非常時下に於ける家事の採るべき方法であると考へる。又燃料不足は當然家庭に煮方の合理化を工夫させる様になつた。實習に於ては殊に燃料を無駄なく使用する事から、一かけらの炭にも感謝の心



を持たせ。更に熱量を如何にうまく利用するかを考へ、合理的な使用法を工夫させることが大切である。かかる些細な事が即ち燃料報國となる所以を知らせる。

5、うるほひを持たせよ 食物は强健な身體を作る爲の要素であるが、更に人は食物を中心に慰安を求む潤ひある生活を樂しむものである。一家團樂の中に合理的に考へられて調理した食物を味ふ事は、家庭の和樂を増す許りではなく、家族の健康を保持すると同時に健康が次の活動の源泉となるものであることを知らせる。従つて食物は「おいしい」と食べる處に和合があり、十分なる消化吸収も行はれるものであるから家族の味覺を考へ色どり、盛付等細かい所に注意して「おいしく食べる」中に食生活本來の目的を達する様指導することは大事な一面である。

## 六、住居教材について

1、郷土を知る事 住居は健康増進の目的を達するに適した住みよい家とすること、よりよき住み方を指導するのが目的である。 住居は健康増進の目的を達するに適した住みよい家とすること、よりよき住み方を指導する

この條件に基づいて郷土の實情を知り、更にこれに基づいて如何に改良すべきかと云ふ事が考へられなければならない。

住居の主要部分は居間と臺所と便所とであるが、これ等は高一教材「住宅」をもととして衛生上から作業の能率上から如何に改良したらよいかを工夫考察させる事が必要である。勿論家屋は粘土細工の様に簡単に作り換える事は出來ないが、改善の根本條件に基づいて家人と共に衛生的な住みに改良する所の熱意を持たせる事が大切である。

2、實踐の場としての住居 住居は一面住み方の研究であるから「住み」として平生如何なる心掛が必要であるかを考へさせる。

先づ居間として心掛ける事は衛生的見地から採光、通風を考へ物の配置、置場所等もそれを基にして工夫し、窓際に大きな調度類を置かぬ様な注意が必要である。又勉強の時の室の明るさは視力に關係する事が大きいことから、机本箱の位置を考へ、よく掃除の行届いた適當に裝飾を施した住みよい室になす爲の指導が必要である。

臺所に就ては家族の健康の鍵を握る臺所の衛生的考察から、日々の調理はその設備の如何によつて作業の能率に關係深いものである事を知らせ、用具の置場所、かまどの位置、流の考察とその清潔、戸棚、棚等の整理整頓、下水の掃除等の指導が大切である。これ等は家事室の整理整頓、實習時の注意等に於ける實踐が基になつて家庭に及ぶ様な指導が必要である。

便所も衛生的見地からその構造に及び蠅の發生を如何にして防ぐか等より驅蟲劑の作り方、防臭の設備、便所の掃除、手拭の清潔、便所の美化に至るまでの指導が必要である。然して不潔になり易い場所は殊に注意して清潔にする様心掛ける事は女子として大切な心掛である。昔から「その家の主婦の人柄を知るには便所と臺所を見ればわかる」と云ふたとへをよく味ははせ、人のいやがる所を進んでやる事は女子として大事な心掛であり、それがやがては家族の健康に多大の影響を及ぼす所以であることを知らせる。

3、生活の場としての住居 住居は單なる構造だけでなく、それが生活の場として考へる時、當然高一教科書中の「井戸と水道」「電燈」「火鉢ストーブ」「疊、建具と其の手入」等が考へられる。又よき住み方の躰として「什器、



履物等の手入」が考へられる。これ等の教材は當然生活の場の上に立つて考へられなければならない。即ち郷土の生活様式が基調となり、これ等一つ一つが日常生活を営む上に、如何に合理的に考へられなければならないかと云ふ事にある。更にこれ等を通して住みよい家とする爲には如何なる實踐が必要であるかとの考察が大切である。

1、電燈、水道の國家への影響　なほ水道及び電燈に於ては、その消費が國防及び産業に關係して居る事を知らせ、水の消費節約及び電力節減を國家的立場より實行せしめ、電燈水道使用を通して國家に協力するの決意を持たせる事が必要である。これと同時に電燈水道のメートルの讀方を指導し、日々使用の反省と如何に使用したらば節約出来るかの工夫は計畫ある生活の一部面であると同時に、直接國家に關係深い事を知らせる。

5、決戦下に於ける我家の護り　更に決戦下に於ける我が家では、空襲に對して平素如何なる準備をして置たらよいかと云ふ事から、消火器用具の整備、遮蔽装置、防空衣、防空室、防空壕等に對する指導と共に、「我が家の護りは必ず我が手で」といふ固い決意の下に萬全を期する様指導する事が大切である。

### 七、經濟教材について

一家の經濟は普通主婦たる女子のあづかる部面であるから、その取り方の如何は一家の經濟生活に直接影響を及ぼすと同時に、延いては國家の經濟に影響を及ぼすことの大であることは、この非常時局に於ては殊に明らかである。一家の經濟は「入るを計つて出づるを制す」ることが大切であるが、決戦下の家庭では單に出づるを制するだけでなく、國策に協力する爲には家庭の消費を如何に切りつめるかと云ふ所に考へ及ばなければならない。それなくしては

今後の長期戦に備へ大東亞建設の使命をはたす事は出来ないのである。この意味に於て家事の使命は重大であると云はなければならない。

經濟を通して國策に協力するにも、戦時下に於ける消費の合理化を目指さなければならない。經濟を無視した闇の往行はその責任の大部分が婦人にあり、その結果は一家の經濟は無統制となり、何等の計畫もなく國策遂行の爲の支出にも不平不満をもらして、これを忌避する等は國民として愧すべき行爲である許りでなく、國家を危くする基であることに氣付かせ、かかる悖德行爲を家庭から驅逐するの心掛を持たせる事が大切である。

經濟の教材内容を教科書によつて見れば、

一家の収入　収入の種類、収入に對する注意

一家の支出　生活に必要な支出の種類、支出の分類、消化の合理化

豫算及決算　豫算の必要、豫算の立て方、決算の必要、後始末

貯蓄　貯蓄の必要、貯蓄の種類

家計簿記　家計簿の形式、記入上の注意

1、収入　一家が生活をして行くには澤山の經費がかかる。その經費は如何にして得られるか、誰が一家の經濟を主としてやるか。何故職業が必要であるか等から収入を得る事の容易でない事及び勤勞の尊さを知らせて行く事が必要である。家の収入の源を安全にする爲及び國家の經濟に協力する爲に卒業後つとめて職業に就く様に指導し、從來働くこととはづかしい事に考へ居てた舊觀念を一掃する様に務めることは、時局下特に大切なことである。



2、支出 支出は働いて得た金銭は如何にして使ふかと云ふ事から、廣く家の經濟を考へ身分不相應の贅澤や浪費を慎み、深く現在の時局を認識させ、合理的な最低限度の生活に甘んずると同時に無駄なき消費を心掛けさせる事が大切である。

特に最近物資が不足して居る爲、親の買溜、買漁りを目撃して居る兒童は、それを當然の事と考へ、目に付いた物はその要不要にかかわらず直ちに買ふと云ふ様な惡風が相當根強く擴つて居る。これは兒童だけの發意でなく、親の頼みであるかも知れないが、子供の將來を考へる時慄然たるものがある。故に支出を通して合理的な買物の指導は殊に必要な事であると思ふ。

3、豫算決算 生活を切りつめ合理的な最低限度の生活に甘んじ、餘力を以て國策遂行に協力するにも豫定の方針を立てて、豫算生活をする事が大切である。豫算生活は一家を經營して行く上に大切な事で、之を誤りなく遂行して行くことは家族に安心を與へ、日々を愉快に送る事ともなる事を知らせる、なほ豫算を通して月々の小使を無制限に使ふ様な惡風は之を避け、豫定を立てその範圍内で使ふ様指導することは大切な事である。

4、貯蓄 戰時經濟に於ては戰爭に必要な物資を確保する爲には、多額の費用を要する。殊に大東亞建設と云ふ大事業をはたす爲にも澤山の兵もいれば船もある。又新らし建設材料も必要になつてくる。従つてそれにも益々多額の費用が必要である。それを國家が賄つて行く必要があるが、その負擔は總べて國民が負ふ所となつて居る。國家の運營を圓滑に不動のものにして行く爲には國民擧つてその責任をはたす事で、それには納税と貯蓄をする事である。この理をよく理解させ如何に貯蓄が一家の生活にも國家の經濟にも大切であるかを悟らせ、日常の生活を切り詰めに

切り詰め、或は生活を出來るだけ簡素になし進んで貯蓄をなして經濟報國の念に培ふべきである。

### Ⅲ、授業の實際

指導の實際は家事教材の各に互り細説すべきであるが、紙面の關係により此處に衛生的教材の第一時扱につき要旨並に指導例を掲げて、著者の意圖を明らかにしたいと思ふ。

#### (一) 教材衛生

#### (二) 要旨

必勝の信念を堅持し聖戰完遂の大業を翼賛し奉る根源は、健全なる身體にあり、この健康なる身體を育成し保全する所に本課の使命がある。

衛生とは消極的方面即ち身體を保護するのみが目的ではなく、之に積極的方面が加はらなくてはならぬ。換言すれば庇護と鍛鍊の両面の智能を實踐を通して知らしむ。

#### (三) 指導例

##### 1、長壽者の健康法調査發表

兒童の生活地域を單位として、長壽者の日常生活各般に互る調査を豫め命じ置き之が發表をなさしむ。この調査は一は敬老の意が多分に盛られるもので、然も具體の中に理論を見出すに重要な役割をはたし、誰々の生活法といふ中から衛生的理論を見出すので、ひいては兒童の實踐にも單なる理論を興へるより以上の生命が通ふものである。



## 2、長壽法に關する吟味

具體から理論を見出す場に於て長壽法を吟味しつつ之をまとめ、更に補遺すべき點を補ひ積極面の衛生理論を明らかにす。然して某氏の年齢以上長生し、然も健康體を保持するには、自己の現在生活を如何にすべきかを反省しその生活法を計畫すべきである。かかる觀點より、

## 3、兒童の衛生生活に於ける體驗發表

この發表は左記項目に互る事が肝要であり、其の順は授業進行の豫定上

(イ) 現在生活の反省となり更に進んで

(ロ) 自己の體位の自覺に導き(之には學校身體検査表の活用も工夫すべきである)之に立脚し長壽法を基底として

(ハ) 健康増進法の計畫を己の體位に應じて工夫せしめることが大切で、之を實踐せしむる爲日記に必ず計畫したる健康増進法の實踐經過を記入すべきを約束して本時を終る。

## 第六章 國防強化と裁縫教育

## I、國防國家體制下に於ける裁縫教育

## 一、國家の要望と裁縫教育

衣類と生活との關係は頗る密接であり、その消費は家庭生活の重要な部分を占めて居る。従つて家の生活が國家に及ぼす影響は非常に大きい。殊に大東亞戰以來纖維資源は急速に不足を告げ、國民の衣類生活には大覺醒がもたらされた。即ち材料の不足は數の上に制限が加へられ、遂に衣料切符制となつて國民生活に一大警鐘が打ちならされた。これによつて國民の衣類に對する反省が加へられ、衣類の眞價を再検討再認識すべき時期が到來したのである。この時にあたり裁縫は國家の要望に添ふべく、國家の現状を把握し之が遂行を期し、一面服裝の眞の姿を認識させ、合理的な服裝生活への指導と同時に、大東亞の服裝文化建設の素地に培ひ、他面裁縫を通して眞に皇國女性として愧しからざる教育を施すことは即ち國民學校の根本精神を裁縫を通して具現するものであり、現非常時下に於ける裁縫科の使命であると思ふ。

## 二、生活實踐としての技術の修練

我國の女子教育の中核は古來より裁縫教育によつたと云つても過言ではない。「裁縫をする」と云ふ事實を通して色々な女子的修練を生活の場に見出し、これを通して人格の陶冶がなされたのである。裁縫は「よい身なり」をする爲のものであり、學校はその「よい身なり」を指導する所である。「よい身なり」には必然的に技術が伴ふ。日本人として愧かしくない「よい身なり」をするには、技術の修練が必要になつてくる。殊に非常時下に於ける國民の生活は多忙を極め國策に協力することによつて衣類の繕ひ、手入保存、利用厚生等の仕事は益々増加し然も平時の時の様に裁縫に多くの時間を費すことは困難な状態に立到つたのである。かかる時に短い時間で然も日々家族の者がよい身なり



の生活が出来る様努力することは女の大切な役割である。裁縫教育に於ける技術の修練もその意味に於て大切なものと云はなければならぬ。

技術は理解しただけではなく、本當に身につくまでの修練を目指さなければならぬ。少なくとも自分の日常の衣類は特別なものは別として、自分で處理する事が出来る様技術を體得させる事が大切である。處理する間に技術は修練され、修練する事によつて技術は確實になり、速度も速くなり従つて臆却がらずに廣く裁縫が生活されて行くのではないかと思ふ。

### 三、經濟的觀念の養成

衣類材料は國家の産業の大事な部面を占めて居るもので、國防國家體制下に於ては、これが消費は直接國策遂行上の大きな問題となつてくる。家の經濟に於て消費の重要な部面を占めて居るものは衣類であると云ふことは前にも述べた。従つて衣類の消費は一家の經濟に重大な關係あると同時に、それが直接國力に關係することが大である現下の實狀を考へる時、裁縫教育に於ける經濟的觀念の養成は國策に協力する所の重大な使命であると思ふ。この使命を達成するにも、材料に對しては如何なる態度で望んだらよいか、如何なる知識を持つたらよいか、又衣類を長持ちさせるには如何なる取扱ひが必要であるか等が、常に國家的觀點に立つてなされなければならない。殊に衣類の數量に就ては從來の様に數多く持つ事により誇を感じて居た舊觀念を一掃し最も合理的な衣類生活をなすには最低限度何程の數量を必要とするかを考へさせ、多くある衣類は務めてこれを他の物に利用し厚生させ必勝の信念の下に最低限の衣類

生活に満足し國力の強大に寄與する様指導する事は大切な事である。従つて衣料切符の最も有效な使用法の指導も必要となり使はなければ損だと云ふ様な個人主義的な考へを一掃し、一點でも多く残して國家に御奉公しようと云ふ心持を涵養することも大切なことである。

### 四、婦徳の涵養

裁縫は裁縫生活の實踐を通して婦徳を涵養して行くことに使命がある。裁縫生活の實踐は、單なる技能の修練だけでなく裁縫生活に於ける全分野が日常の生活に具現されなければならない。従つて學校で得たものは裁縫室だけに留まらず日々生活行として廣く行ぜられなければならない。それには先づ裁縫室が生活行の根本であり裁縫を中心にあらゆる婦道が實踐されて行かなければならない。この意味に於て裁縫室を婦道の實踐道場と考ふべきである。裁縫室が婦道の實踐道場である以上その經營は自らその目的に添ふことが大切である。例へば教室の整理にしても女らしい細い心使ひの中に標本備品等が整然として居て入つてくる者の心持になごやかな潤ひを持たせると同時に肅然として「これから一生懸命にここで裁縫をするのだ」と云ふ心持を起さしめる様な場の構成が必要である。この様な場が構成された中での學習には自ら坐座進退も淑やかに物出し方、机上の整理整頓等に至るまで注意がはらはれカーテンの破損等も進んでこれを繕ふ様になり作業に當つては靜肅に一針々に精神を打ち込むことが出来る中に魂の籠つた作品が出来上つて行くことと思ふ。この様な手近の生活の中に知らず識らず婦道は涵養されて行くと考へる。

現下の非常時局に於ては人心が兎もすれば荒み易い。この様な時裁縫の一時を和やかな女らしい雰圍氣の中で裁縫



學習を行ふことは是非必要な事であると思ふ。これがやがては「澁柿や澁そのままの甘さかな」と云ふ様な苦難の生活の中にしつとりと落ちついたゆとりある生活を生活する素地に培ふものではないかと思ふ。

### II、實踐上の諸問題

國民學校の精神が具體化され實踐上の諸問題が系統的に内含されてゐるものは新教科書教師用書である。かかる見地から初等科四年の教師用書に基づいて其の趣旨を、個々の教材の検討更には全教材を通して之を明かならしむる爲左に一覽表を掲げる。

一覽表

教 材	基 礎 技 術	工 夫 力	鑑 賞 批 評	躰
一、よい身なり	學習上の心構、用具について			
二、食食用ひざかけ	運針の基礎			着物ぬ大切にす心掛
三、机ふき	斜ねつぎ縫	配色の考案 圖案の工夫	製作圖案の反省	生活の場を常に清潔にする態度、布巾、雑巾のかけ方
四、糸くづ入	待針の打ち方、返し留	袋の特徴 出来上り寸法と縫代		身のまわりの糸屑をよく拾つて始末させる
五、お手玉、針さし		形寸法の考案、小ぎ 案の工夫、配色の考		

教 材	基 礎 技 術	工 夫 力	鑑 賞 批 評	躰
六、せんたく	かぶり縫、洗濯實習 用具の手入			洗濯、整理を指導すること によつて、よい生活を躰けて行く
七、手さげ袋	袋縫、二度縫、三つ折縫、きせのかけ方、物の正し、持ち方、物の使用	中に入れるものによる寸法の定め方、縫代との加へ方、縫代利用	大きさ、ゆるみ加減 出来ばえ	
八、前掛	三つ折ぐけ 本割はぎ、半返し縫 抑え線、線縫、布置刺縫	形の工夫、配色、用布の見積、簡単な飾りの考案工夫	地質と柄の適、不適	勤勞、愛好の精神涵養 汚れた場合は早く洗濯する
九、着物の仕末				自分の物の仕末、弟妹等の世話、肌着、足袋、靴下の洗濯、干物の取入、しまひ方の手傳
一〇、袋枕おほひ		有り合布利用、形、大きさ、地質、裁方の考案工夫、作業の能率	中味による袋の色々	
一一、下ばき	身體の寸法の採り方、型紙の作り方、布の裁方、縫方	型紙の置方、工夫		下着は常に清潔にして置く 良習慣をつける、ほころびの修理
一二、べんとう包		べんとう包の考案、小布利用	用布は少なく出来たか、便利であるか、形がいかに	

この一覽表により明らかな如く初等科四年では、兒童の生活に即して、衣類の各方面に涉り、その基礎を會得させる事に主眼が置かれてゐることがわかる。ここに於て實際指導に當つて、更に之を如何に修練せしむべきかにつき、



細説を試みる事とする。

一、基礎技術に就て

基礎技術は四年に於ては如何なる種類のものを、どの教材を通して指導するかと云ふ事をしらべ、次の一覽表にまとめ、更にその各々についての取扱ひの實際を述べてみることにする。

基礎技術一覽表

教 材	縫 方	く け 方	糸の留方	糸のつぎ方	布のはぎ方	用 具
二、食服用ひざかけ	運針 直線ぐし縫		玉 留			指貫のはめ方、針の 持ち方、糸の扱ひ方 布の扱ひ方
三、机 ふ き	斜ぐし縫			重ねつき		
四、糸くづ入	きせのかけ方		返し留			符針の使用法
六、せんたく	かぶり縫					
七、手さげ袋	袋 度 折 縫 縫 縫 縫					へら物尺の使用法
八、前 掛	半返し縫 抑え縫 線え縫 布置刺縫	三つ折ぐけ 本			割はぎ	

以上によつて本學年に於ける基礎技術としては運針、留方、縫方、用具の使用法の四項目を通してその内容が明らかとなつた。然してこれが修練には合理的な會得による徹底を期せねばならぬ。

1、運針 運針は衣類縫合の根本となるもので其の巧拙は出來上りの體裁と着工合とに大に關係がある。それ故  
始から正しい方法を會得させそれが徹底するまで努力する事が必要である。然しながら之には中々困難を伴ふもので  
一朝一夕に効果を擧げる事は容易でない。されど合理的な指導法によりその上にたゆまざる修練を積んでその徹底を  
期さなければならぬ。

指導法としての第一階程は姿勢と手法の修練に重點が置かるべきである。

姿勢は體練科體操、禮法等と關聯させ正しい姿勢を理解させ、之を基礎として裁縫する時の姿勢に導くのである。  
裁縫の姿勢は所謂「構へ」であつてそれには兩腕を自然に張つて上體に付けず不自然に感じない位置に持來たらしめ  
る様指導し飽くまで細心の注意を拂つて作業基本としての姿勢の骨子に徹せしむる事が大切である。

次に手法はその全部を一度に要求する事は無理である。先づ右手の手法にならせ然る後左手の手法を會得させ兩手  
の構へに進む、これは如何にも理論的で兒童の心理には適合しない様に考へられるが兒童は早く上手になりたい一心  
でこれ等の新しい經驗に興味を感じ手法に早く馴れ様と努力する。この様に基礎的なもの要領を順次理解させつ  
つ合理的なものへと指導して行く。

運針の練習は「三机ふき」に於て「運針の練習」「五お手玉と針さし」の所で「基礎技術を修練」させる様に示され  
てあるが、これはこの二つの教材に特別運針に主力を注ぐと云ふのではなく全教材を通して運針の修練は考へられな



ければならぬ。唯々前者は未だ手法が固まらない時であるから殊に練習が必要であり、後者は工夫創作力にのみ主眼が置かれ易く兎もすると運針、留方、等が副次的な扱ひになる恐れもある爲特に表面に現はされたものと思ふ。四年の教材中衣服としては僅かに「前掛」と「下ばき」位で他は多く袋類小物類である、これ等も又一面基礎技術の修練の材料として入れられたものである。運針は絶えず反復練習しなければ實物の縫方には役立たない。教材を通して修練するとは云ふものの各々の教材にはそれぞれ運針以外の目的もあるわけで、それ等も合せて達して行かなければならない時に製作のみに頼るのでは十分の効果を期する事は出来ない。従つてそれには毎時間の始めに短く練習をするとか時間をきめて少しく時間を取つて練習に當るとかの方法が考へられるが四年では一年を通じて正しい姿勢と正しい手法が確立する様修練することが必要であつてそれには毎時間少しづつの練習をおこたらず「よい針目」を目指して努力させることが大切である。

教科書の最後に運針記録があるがこれを利用するには一学期のうちは専ら手法に馴れさせる爲であるから少し無理の様である。二学期頃より運針練習の後一分間の針目数の記録を取つてその成績を記録させその進歩の跡を眺めて練習し發奮努力して行く様之を利用したい。これも毎週となるとわづらはしくもなり時間も相當かかるので二週間に一度か三週間に一度位が適當ではないかと思ふ。

2、留方 留方は本學年に於ては前表でもわかる様に留結び玉留と返し留を授ける事になつてゐる。留方は留の強度を知ると共に場所に應じた留方を知らせる事が大切である。それはやがてどんな所にどんな留方をしたらよいかと云ふ事が自ら理解される様になる。勿論留方は一つの教材に何回となく現はれてくるのであるから修練するうちに體得されるのであるが最初より合理的な修練を通して、體得させる様指導することが肝要である。

3、縫方 縫方では一覽表によつて見れば串縫、斜縫、かがり縫、袋縫、二度縫、三つ折ぬひであるが半返し縫、押え縫も大切な縫方である。然しながらそれが要旨に示されてゐないのはその手法が運針の應用であるからだと思ふ。

「八前掛」の要旨で三つ折ぐけ、本ぐけ等の技術の指導をなす様示されて居るが、半返し縫、押え縫はその「等」の中に入つて居る基礎技術と考ふべきでこれも又合理的な方法の指導が必要である。

きせのかけ方は「四糸くづ入」の所では、縫代の方向を定めると、縫目を整へる爲にかけるのであつて、ここでは手法上の事には觸れず兒童が隨意な方法で行はせる事になつてゐる。これは兒童が家庭で母親等がやつてゐるのを見た事があるだらうからそれを思ひ浮ばせて行はせる。「七手提袋」では正しいきせのかけ方の手法を示範により教科書挿畫によつて授けるのであるが運針の技法と關聯させつつ會得させることが大切である。

4、くけ方 くけ方も衣類製作上運針に次ぐ重要な技術である。殊に單衣等はくける部分が相當に多くその巧拙は出來上り及び使用の上に關係することが大きい。本學年では三つ折ぐけと本ぐけの二種が擧げられて居るが何れも縫ふ事と比較して體裁のよい事を知らせる。くけ方は手法上中々六ヶ敷く殊に手の構へ布の持ち方針の持方等合理的に指導し、修練する間にその「忽」を體得させる事が必要である。なほくけ方も運針と同様時々運針用布で練習し技術の上達を計ることが必要である。

5、用具の使用法 用具の使用法に於てもその理を明らかにして、その順序方法を會得させることが肝要であ



る。待針の打ち方、物尺、へらの使用法もその巧拙が衣類の出来上りに關係する事から、合理的に使用するよう指導すべきである。

待ち針は打つ事の理由を明らかにし、どこに先に打つか、どの位の間隔に打つか等その順序方法を實物に即して指導する事が大切である。應々兒童はへら付を無視してやたらに打つが打つ最初の一针が大事である事を理解させる。又縫ふ場合には必ず左手の指先で待針を押え縫針の針先がそこまで來たら一旦糸こきをして針を針さしに移し、それから次の待針へと縫つて行く様な躰も大事である。

物尺の使用法は計り方によつて寸法に狂ひを生ずるをもつて布に正しく當る事が大切である。又動くとははり寸法が狂ふので、動かないで正しく計るには如何にしたらいいかの理を明らかにし、兒童用書により示範によつてその手法を授ける。

へらの使用法も、力が丸みの所に集中する様な持ち方が大切である。筆を持つ様な持ち方は、十分力が入らないからなほさせなければいけない。なほ、付ける場合には押える様な心持ちで、餘り多くこすらぬ様に又、餘り大きく標さない事である。餘り大きいと表に現はれるから布を破らない様に注意しながら小さく標すことが大切である。殊に人絹、スフ等はちぎりに切れ易いのでその取扱も餘程注意する必要がある。

## 二、製作に就て

製作は裁縫の重要な部分を占めて居る、製作には殊に工夫力、工案力を十分發揮させる事が必要である。それには

ただ型を教へ込むのではなく、合理的にその理を悟らせる様指導する事が大切である。

1、寸法 寸法はどこまでも物に即してきめられて行かなければいけない。教科書を見るとどの教材もそうした精神で取扱ふことになつてゐる。これがやがて工夫力となる素地ともなるものである。これは和服の様な模作的な教材を扱ふにも必要なことである。例へば從來普通寸法と云ふ所謂普通の體格に合ふ寸法をそのまま寸法として授け、それを基にして着る人の體格で單にその寸法を加減して居た傾向が多かつた。これでは兒童に裁縫の力を付けてやることは出来ない。普通寸法としてきめられる迄には、長い經驗を経て出来上つたものであるから、それをそのまま鵜呑みにさせるのではなく、あの寸法の生れて來た理を明らかにし、着る人の體格、年齢着付男女の差によつて合理的な寸法がきめられるのである事を、理會させながら取扱ふことが必要である。

2、裁方 裁方に於ても縫代の加へ方、寸法の定め方、ゆるみの意味及び寸法、型紙の取り方布の裁ち方等總べて目的に合つた合理的な取扱ひが必要である。

例へば「九下ばき」の型紙の取り方でも體の寸法が基になつて更に運動に便利な爲に、又窮屈でない爲にゆるみを加へる事を理解させて幅がきめられ、又身體のどの部分に付けるかと云ふことから丈がきめられ、體の形から厚みの所が理解されて製圖される。兒童用書では前だけが別に製圖してあるが、あれは片足分の製圖を前後に分けて先づ、前の製圖を理解させ然る後うしろの製圖を理解させると云ふ様に理解を助ける爲の物である。これは分合標本等を利用して各部分をはつきりと認識させて製圖させる事が大切である。なほ丈が前より後が上つて居ることも、身體の構造及び屈伸によつて後がすれない爲に上げてある事を理解させる。



布の裁方に於ても型紙通りに裁つ爲には布をどう使用したらよいかを、丈夫さの上から縦横の使ひ方を知らせ、無駄を出さぬ様、殊に現在では少しの布でも必要な場合には衣料切符によらなければ買ふことの出来ない事を考へさせ、裁ち落しも後の利用を考へ大きく残す様工夫させる事が大切である。

3、縫方 縫方の指導に於ても合理的な上に立つての指導が大切である。例へば針目にしてもその大小は縫ふ場所により布の厚さにより異らせる。例へば前掛の紐付けは使用の場合下に引かれる事が多い。その様な場所は細か目に縫つて丈夫にする必要がある。又留め方にしても「四糸くづ入」で返し留を授ける事になつて居るが口の處は玉留では結び易い。もう少し丈夫な留方が知りたいと云ふ必要感から返し留に導く、殊に児童は和服に於ての身八つ口、袖付、袖口等は結び易い経験を持つてゐる。その経験を基にしてそれに應じた留方は習得したものうちのどれが一番適して居るかを考へさせて理解の下に行はせる事が大切である。かくする事によつて、結びた時にもどうして繕ふかと云ふ事が自ら了解出来る。

その外袋縫をすゝ場合、二度縫をなす場所及び各種の縫方留方に至るまで理にかなつた方法を授けることが大切である。

4、色柄に就て 色柄の選擇も衣服全體から眺めて、調和のよい色、柄、及び着用者に相應しい色、柄を選ぶ事を指導する事が大切である。これは圖畫との關聯を計つて十分その効果を發揮する様指導すべきである。

### 三、材料に就て

大東亞戦争は纖維資源の不足を來たし、その結果は國策として混紡品が多くなつた。従つて製作の上にも、洗濯、手入、保存等の上にも、その取扱ひが從來よりはすつと複雑となり、その指導はいよいよ重要さを加へて來た。衣類處理が合理的であるか否かは衣類の生命に關係する事多く、それは直ちに一家の經濟に關係する許りでなく、直接國策遂行上にも支障を來たして來る。合理的な處理には纖維の具體的な知識が必要となり、纖維の性質、特徴を知る事によつて織物の性質に即した取扱ひが生れてくる。然しながら纖維の特質を正確に見分ける事は中々六ヶ敷く、特に織物の進歩は巧妙な混紡品が多くなり、益々複雑さを加へて來て居る。この様な時幼少よりなるべく多くの纖維に觸れさせ、纖維に對する知識を確立させ將來合理的な衣類生活を營ませる様指導することは必要である。それが初歩として初等科四年では先づ日常最も多く觸れる材料を通して知らせる事が大切である。それには児童が製作する材料を基として見た目や手觸り燃焼等によつて一通り區別が付くまでに修練する事である。

1、纖維の見分け方 材料の知識は児童の生活經驗に基づいて、それから發展すべきである。児童は觀念的には木綿、人絹、スフ等いくらか知識は持つて居るが、具體的に識別する事は中々困難である。例へば「机ふき」に於て日常使用の雑巾から、その用布はどんなものがよいかと云へば丈夫な布、餘り硬くないもの、絞りよいものと云ふことは經驗を通して了解してゐる。ではそうした雑巾を作るにはどんな地質がよいかと云へば、木綿であると云ひ、人絹、スフは弱いと云ふ事も常識として知つて居る。然らばどれが木綿、人絹、スフであるかと云つて實物を見せても中々判然としない。これが児童の常識であると思ふ。従つてこの常識を合理的なものに育て上げて行く事が大切である。それには児童の日常經驗を基とし、或は平素見聞して居た見分け方を基として、眼を通して光澤質感等、



手に觸れて手ざわり、硬軟等、然して見てその燃え方等を知らせ度重なる經驗を通して體得させる様指導すべきである。これには又教師としては標本を分類的に陳列し或は學習材料の相互的研究を行なはせる等あらゆる機會を利用して材料に觸れさせる事である。

2、使用目的と材料 材料は其使用の目的に應じて選ぶ事は大切である。然しながら現在の情勢では必要な材料が中々思ふ様に手に入らない。例へば下ばきを作るにしても用布は使用目的から考へて「保健上冬季用は厚地で軟いものが適當であること、また清潔を保つ上から白くて洗濯に耐へる丈夫なもの」と云ふ事が書かれてあるが、この條件に合つたものをどこでも持合せて居ると云ふわけには行かない。従つて夏服の丈夫な所を利用するとか、袖裏の白布を使用するとか、ワイシャツの古い物人絹、スフ等あらゆる材料を利用しなければならぬ。この様な時どこまでも現下の状態を認識させその性質に應じた仕立方を考へさせ工夫させなほなるべく長持ちさせるには使用の場合如何なる注意を拂つたらよいか、どんな注意をして洗濯をしたらよいか等、進んで材料を研究する態度に導くことが大切である。

3、經濟的方面の問題 裁縫は材料を無駄なく利用して製作することが大切である。これは將來一家の經濟をきり盛りしなければならぬ女子に取つては大事な事であると同時に、衣服資源が國家經濟から考へて、直接影響のある點を知らせ、努めて有り合せ布、廢物等を利用するとか、其外纖維資源は短い糸に到るまで無駄にせぬ様、使用に堪へない物はまとめて廢品として再び役立つ様に平素より心掛けて置く必要がある。

材料の有り合せは製作の場合實際にその取扱ひに非常な困難を感じる。例へば「手さげ袋」の用布にしても有り合せ布を持つて來ると地質、布の大きさ、形等まちまちで中々教科書の裁方通りには行かない。布の形によつては横に袋を取らなければならぬかつたり、紐の分が不足したりする。この場合これを如何に取扱ふかと云ふ事は、相當骨の折れる問題であるが、先づそれには基本寸法をしつかり知らせる事である。即ち教科書の裁ち方によつて縦の寸法、横の寸法、口の所の三つ折の見込み寸法、紐の寸法等、しつかり理解させ、これを實際の地質に應用させて見る。すると布が小さい爲に、口の所の三つ折分が取れなかつたり、ゆるみ分が少なかつたりする場合が出てくる。然しこれ等は中味が入ればよいのであるから、少し位少なくとも多くても差支へない。又縫代も一・五糎づつ取つてあるが裁目がぼろぼろ解けて行く様な人絹、スフ等であつたら、中縫は五糎でなく、八糎か一糎位取つて置く。従つて縫代は二糎として見積らせて裁切寸法をきめる。この様に色々な材料であると、子供は一生懸命に考へて色々工夫する。然しながら教師としては相當わづらはしい事ではあるが、そのわづらはしさに堪へ、教師も共に工夫し考案する態度で指導したならばその教育的効果は大きいものである。その他無駄なき裁方、残り切の利用等から、物を愛惜し、大切にする様奨めて行く事が大切である。

#### 四、鑑賞批評について

四年に於ける鑑賞、批評を行ふ教材は「手さげ袋」「前掛」「べんたう包」等である。然しながら授業としては以上の教材を通して行ふのであるが、この態度は何れの教材についても持つて居なければならぬ。然し特別に鑑賞批評を指導する爲には特定の教材によつて、その方法及び態度を養はなければならぬ。



鑑賞は服装美に對する感覺を鋭敏にする爲に行ふ指導である以上、そこには眞の服装美とは如何なるものであるかの美の根本に基づいての指導がなければならぬ。即ち無駄のない美しさ、言ひ換へれば、實用的な、合理的なものが最も美しいのであると云ふ事に氣付かせる事が大切である。例へば前掛の美しさは、作業を通して始めて眞の美しさがきめられる。唯見た眼が美しいのでは眞の美しさとは云へない。これが鑑賞には先づ作業をする時に用ひるものであるから、度々洗濯をしなければならぬ。洗濯をすれば地は痛み易く色は剥げ易い。それには地質としては如何なるものが適して居るか、或は飾りのあるポケットを付けたり色布で縁を取つたりする場合、如何なる色合をえらんだら調和がよいか、形、大きさは適當であるか否か、又刺繍にしても洗濯で崩れる様な刺繍では、どんな美しくても實用にはならない。従つてどんな刺繍が適して居るか等を考へることによつて始めて眞の鑑賞が出来る。即ち鑑賞批評の態度は、その目的に合つたもので、然もそれが色の配合、形の釣合手法の巧みなものが最もよいもので美しいものであると云ふ觀點に立つて行はなければならぬ。従らに外見の調和だけの美しさによる鑑賞であつたならばやがてはそれが浮美となりおしやれ心を持たせる恐れともなる。鑑賞批評は又出来上つた時にそれを着用して見て、はたしてその人の身體にしつくり合ふか否かを鑑賞させる事も大切な事である。更に上着との調和、縫ひ方の巧拙等これ等は兒童相互に鑑賞し批評し合つて、その成功した所、失敗した所を自覺させ、次の製作の参考にする様指導する。教科書に参考として色々な挿畫が入れてあるが、あれは製作上の参考にする許りでなく、鑑賞用として大に利用すべきである。形にしても色合にしても最も手近な鑑賞用として便利である。試みに前掛の標本圖について見ても色々な地方的な物があけてあり、形に於てもその一つ一つにその地方獨得の美しさがあり、又模様にしても我國の傳統的

な模様である麻の葉つなぎとか、格子縞等の美しさが盛られて居る。これ等の美しさを鑑賞させると同時に模様の名稱も知らせて行く様にする事は、我が國獨得の模様美の美しさに觸れさせて行くことにもなる。

なほ作り方に於ても色々工夫されて居ることに氣付かせる。二十六頁左側の大原女の締める二幅半の前掛は、圖ではわからないが、接ぎ目の下の方が明いて居る。これはこんなに廣いものを全部下まで縫つて終つては歩けなくなる。その爲に明けて、歩くのに都合よくしてある。これは更に日常の生活の中に、さうした物は無いかと云ふ事から襦袢の馬のり、國民服の裾等が同様である事に氣付かせ、鑑賞を通して廣く物の觀方を指導することが大切である。なほ鑑賞は物に即して或は繪畫寫眞等を通して行ふ事も大切であるが、裁縫室の整理、整頓に心掛け適當の裝飾をなし、各種標本、参考品等を教材に應じて適宜美しく陳列して鑑賞眼を向上させる一助ともする事は望ましい。

### 五、整理保存について

衣服を長持ちさせることは、非常時局に於ては殊に必要なことである。それには平生よりよく手入れをする事で、手入の行届いた着物を着てゐる事は自らその人の幽しさが忍ばれる。この意味で四年では「せんたく」「着物のしまつ」の二項目が取り上げられ、この二つの教材を通して兒童に相應しい、整理保存を知らせる事になつてゐる。

「せんたく」はよい生活を躰けて行くためのものであり、「着物のしまつ」はよい身なりをする爲の躰である。

洗濯する時の心得としては、足袋、靴下、下ばきの様なものはハンカチーフ膝かけ等と區別して洗濯するとか、ひどく汚れた物と左程でない物、色物と白布又木綿と人絹、スフ等は區別して洗ふ様な注意が必要である、又裁目の所



はそのまま洗ふとほつれ易いので、かがり縫をしてから洗ふと云ふ様に細心の注意を怠らず、洗濯をしたために後で差支へが出て來たと云ふ様な事のない様に心掛けさせる。

洗濯は「よい身なり」と關聯して甲斐々々しい身仕度をする事が大切である。又石鹼を無駄にしないとか、使用した道具の後仕末をよくする等の躰は十分徹底せしめたい。

着物の仕末では毎日着る着物なり洋服なりは一々人手を借りないでも、自分でしなければならぬ事を知らせて、子供の出来る程度の手入れをさせる。例へばほこりはどんな風に拂つたらよいか、ブラツシはどういふ風にかけるか等を實際に即して指導し、出来れば各自上着を脱いでめいめいブラツシの掛け方をやらせて見る。

畳み方は藏つて置くにはどういふ風に畳んだら都合がよいかと云ふ事等も標本を使つて實際にやつて見る事が必要である。寢巻はよくそのまま戸棚の中へ投げ込んで置く様な子供があるが、これ等も和服の寢巻のたたみ方バジャマの藏ひ方を指導し、きちんとたたむ要點を掴ませたい。

又足袋靴下手袋等は兎角片方がなくなり易いものであるから、なくならない様な藏ひ方の指導が必要である。なほ靴、下駄の仕末も大切である。特に履物を脱いで上る時にはキチンと揃へる事を奨励したい。これ等の躰と關聯して學校に於ても下駄箱の整頓、傘棚の整理が出来る様に躰ける。

よい身なりをする爲には、肌着が汚れて居たり、足袋靴下が汚れて居たりしたのではいけない。いつも洗濯が行届いて居て、さつぱりした物を着る様に注意させたい。それはただ心持がよいと云ふだけでなく、永く使用が出来て經濟的であることを知らせる。洗濯が出来なくても干物の取入れやしまひ方の手傳は出来るのであるから務めてさうし

た仕事の手傳をする様奨励する事も大事である。

### Ⅲ、授業の實際

教材「食事用ひさかけ」を取り、主として基礎技術である運針の取扱ひについて、その實際を指導例として左に掲

ぐ。

#### 一、教材 運針 二時間扱

#### 二、要旨

自由な縫方より導入して、正しい運針の具備する要件を知らせ、學習目標を確立し、その骨子となる姿勢、技法の基礎を授け、之が徹底をはかりつつ目標に向つて修練をはかる。

#### 三、指導過程

##### 1、上手な縫目の見方指導

(イ) 運針用布により何等指導することなく自由に運針をさせてみる。

(ロ) 串縫標本と比較させ「きれいに縫へてゐる」と云ふ兒童の答よりその「きれい」或は「上手」なる言葉を吟味しつつ更に教科書により上手な縫目下手な縫目と比較させ、見方の指導をなし次の三點に歸結する意味で教科書を讀ませる。

イ、ぬひ目がまつすぐで、ゆがんでゐない。



ロ、針目がよく揃つて大小がない。  
ハ、糸こきが十分出来てゐる。

2、正しい運針の考察

(イ) 外見上から眺めて

標本及び挿畫を觀察させ、均齊の美をさとらせ、更に

(ロ) 實用上から見て

上手な縫目が出来上りにどう關係するかを日常經驗を基にして發表させ、次に教科書の讀解を行ふ。

3、上手な運針の指導

(イ) 運針の時の態度

この様に縫ふにはどうしたらよいかと云ふ事を發表させ、然る後教科書を讀解して、運針する場合の態度をまとめ  
る。

(ロ) 針の持ち方

指貫をはめる位置の工夫

正しい針の持ち方

示範及び教科書挿畫を利用して、正しい持ち方の指導を行ふ。この時針は指貫に對して、垂直になる様指導する。  
更に曲げた三指はしつかり掌につけ、拇指と食指の指先を揃へる様注意をなす。

#### 4、針の正しい運び方



#### (イ) 姿 勢

正しい運針するには、姿勢の大事な事に氣付かせる。習字の時に  
も姿勢を正してから書始める體験を反省させ、姿勢が作業の根本であ  
る事を知らせ教科書

イに基づいて 正しい姿勢を取らせる。この場合、腰を少しく後に  
引き、みぞ落の所を延ばす様にすると、上半身が眞すぐになる。

ロ 兩腕の曲げ方 示範及び參考圖を觀察させロに基づいて、兩腕を  
自然に曲げて「構へ」をとる。この際手と手の間隔、目と手の間隔、  
上體と手の間隔に注意し、なほ脇の下の開き加減等卵の譬喩等により  
その要領を呑み込ませる。

#### (ロ) 腕の運動

布を持つて再び「構へ」を取らせ、左右同じ手の形で（左手は曲げ  
た三指で大きく布を掴む）腕を上下に大きく動かして、手の運動を理  
解させる。

#### (ハ) 運 針



針に糸を通す、糸の長さに就ての指導、

針運針用布に刺し三度び「構へ」をとらせ、針を指貫に當て大きく運動を繰り返し練習をさせる。この場合針が布から落ち易いが、どうしたら落ちないかを工夫させつつ行ふ。なほうまく縫へない児童には更に再び針の持ち方、腕の運動を指導す、これをくり返しつつ自由な運針を練習せしむ。

(三) 反 省

縫ひ終りたらば自由な縫ひ方と比較せしめ、更に練習をくり返す。

5、用具の整理

用具はどこに置いたら一番使ひよいかを反省させ、この次の時間より教科書挿畫の様に置くことを約束し第二時を終る。

注意 説明は簡略で要を得る事、出来るだけ體驗させつつ理解せることが大切である。

昭和一七・一〇・二七日 午前七時稿を終る

不 許 複 製



昭和十八年一月十五日 印刷  
昭和十八年一月二十八日 發行

國防強化と藝能科教育

定價 貳圓五拾錢

送料 拾五錢

著 者 神奈川縣師範學校附屬國民學校

發行者 河 内 二 郎

印刷者 岩 崎 林 造

印刷所 明治印刷株式會社

東京市神田區鎌倉町十九番地

發 行 所

鎌倉市雪ノ下

神奈川縣師範學校附屬國民學校

電話 鎌倉六四七番



神奈川県女子師範學校附屬國民學校著

A 5 判

# 國民科授業細目

- 國民科修身・國語・綴方・郷土の觀察につき教材のねらひ、指導の要項、指導の計畫を具體的に解示
- 各學年用共教材配當一覽表を附屬す
- 國民科運営の實踐記録

初四用	初三用	初二用	初 一用
送料 定價 三十五錢	送料 定價 二十七錢	送料 定價 二十五錢	送料 定價 二十五錢

高度國防教育體制の確立と國民科の運營!!

閣 光 新 所 行 發  
 一十目丁三町保神區田神市京東  
 番七一〇一三一京東替振

折居千一著

樺島勝一裝幀

# しつけの科學

培國神社宮司 鈴木孝雄題字

四六判上製

大日本青少年團長 石川謙序

定價 貳圓貳拾錢

東京女高師教授 唐澤杉三序

送料 十五錢

本書は正しい日本的「しつけ」の觀念を體得せしめる方途を示すと共に「しつけ」を科學の上に立脚して皇國の使命を體認し外に調和を求むる「道」に立つての實踐を平易にかつ具體的に説ける學校、家庭必讀の好著

新しき啓培源泉を指示日本的「しつけ」の科學化

閣 光 新 所 行 發  
 一十目丁三町保神區田神市京東  
 番七一〇一三一京東替振



エト56-20

東京青山師範附屬主事

阪本一郎著 B 6 判

定價 二圓三十錢  
送料 十五錢

# 少國民鍊成の心理

## 鍊成觀の新構想

幽玄な理論はしばらく措き核  
心に觸れつつ直ちに實踐への  
構想を導く著者独自の鍊成觀

### 内 容

- 一、昭和教育維新
- 一、皇民鍊成の理念
- 一、兒童觀の轉廻
- 一、修練の心理
- 一、經營の新構想
- 一、國民的世界觀鍊成の實際

發行所 新光閣

東京市神田區保町三丁目十一番  
振替東京一三一〇一七番











